

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA 輝く国スポーツ

第79回国民スポーツ大会

2025



高等学校野球 (硬式) 競技会



開催日 2025年9月29日(月)~10月2日(木)

会 場 マイネットスタジアム皇子山

主 催 公益財団法人日本スポーツ協会



文部科学省 滋賀県

公益財団法人日本高等学校野球連盟

大津市

JAPAN GAMES

国民スポーツ大会



国民スポーツ大会(国スポ)は、広く国民の間にスポーツを普及し国民の体力向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与することを目的として、毎年開催される国内最大の総合スポーツ大会です。都道府県対抗で行われる正式競技・特別競技・公開競技のほか、年齢・性別・障害のあるなしを問わず、誰もが参加することができるデモンストレーションスポーツが実施されます。

第79回国民スポーツ大会

大会愛称

わたSHIGA輝く国スポ

選手、ボランティアをはじめ、滋賀県で開催するこの大会に関わるすべての人が、様々な場面で主役として光り輝き、夢や感動、連帯感を共有できる大会を目指します。

大会スローガン

湖国の感動 未来へつなぐ

「琵琶湖」を擁する湖国滋賀で生まれた感動が、この大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれるようにとの願いが込められています。

大会マスコットキャラクター

琵琶湖に生息する固有種「ビワコオオナマズ」をモチーフにしたキャラクターです。



■ キャッフィー

どんぐさいわりにチャレンジ精神が旺盛で何事にも一生懸命。子ども好きで人を楽しませることが大好きです。



■ チャッフィー

「キャッフィー」の幼なじみで、昔から仲の良い友達です。泳ぐことは得意ですが、陸のスポーツは少し苦手で「キャッフィー」に教えてもらっています。

「キャッフィー」と「チャッフィー」を合わせて「キャッチ」。人の心をキャッチする、という意味が込められています。

目 次

あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会 会長 遠藤 利明	4
文部科学大臣 あべ 俊子	5
公益財団法人日本高等学校野球連盟 会長 審 馨	6

歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長 滋賀県知事 三日月 大造	7
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長 大津市長 佐藤 健司	8
一般財団法人滋賀県高等学校野球連盟 会長 田濃 良和	9
大会役員	10
競技会役員	14
競技役員	16
競技補助員・競技会係員・競技会補助員	17
総則	18
実施要項	37
競技日程・組合せ表	42
式次第	43
出場校一覧	44
出場校紹介	45
試合上の注意	53
競技の見方	55
過去の成績一覧	57
第 107 回全国高等学校野球選手権大会成績	59
競技会場案内図	60
関係機関連絡先一覧	64

敷 地 内 全 面 禁 煙

ただし、望まない受動喫煙防止のため喫煙所を設置しています。

喫煙される方は、指定された喫煙所をご利用ください。

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会

あいさつ



公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤 利明

約 400 万年の歴史を持つ日本最大で最古の湖である琵琶湖を中心に雄大な風景が広がり、古くから日本の文化や経済の先進地として栄えたここ滋賀県において、第 79 回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りです。

大会愛称である「わた SHIGA 輝く国スポ」のとおり、大会に関わる全ての方々が主役となり、光り輝くことができる大会となることを願っております。

スポーツは、目標に向かっての努力と達成感、そして観戦する人をワクワクさせ、楽しく、心を動かすものであるからこそ、人々を、社会を元気にする力を持ちます。

本年 6 月、14 年ぶりに改正されたスポーツ基本法では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」に加え、「集まる」「つながる」として明示されています。

厳しい予選を勝ち抜き、郷土の代表として集まったアスリートの皆様には、フェアプレーを通じて友情を深め、つながり、スポーツが楽しいものであることを体現いただき、開催地の皆様とも交流を深め、全国にスポーツの力と滋賀県の魅力を発信する伝道者になっていただければ幸いです。

さて、昭和 21(1946)年にスタートした「国民体育大会」は、昨年から「国民スポーツ大会」へ名称を変えて新たなスタートを切るなど、大きな変革期にあります。

日本スポーツ協会では、本年 3 月、「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」から示された「提言」に基づき、国民の皆様がこれまで以上にワクワクし持続可能な魅力ある大会となるよう、様々な改革に取組んでいくこととしています。

結びに、本大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元滋賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あいさつ

文部科学大臣

あべ 俊子

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ滋賀県において第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

滋賀県は、日本最大の湖である「琵琶湖」、四季折々の表情を見せる「伊吹山」等、美しく彩りある豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「比叡山延暦寺」や国宝「彦根城」等、歴史と文化が息づく県です。

昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりの滋賀県での開催となり、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、本大会は、様々な場面で環境に配慮した取組を行い、スポーツの力を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していくすばらしい大会となっています。「わた SHIGA 輝く国スポ」が、国民に夢と感動、連帯感を共有できる大会、また、開催地である滋賀県の活性化に資する大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さん、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や滋賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、パリオリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一緒に取組を進めてまいります。

結びに、「わた SHIGA 輝く国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元滋賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和7年7月31日



あいさつ

公益財団法人日本高等学校野球連盟

会長

寶

馨

1981(昭和 56)年の「第 36 回国民体育大会」以来 44 年ぶりに、滋賀県において「わた SHIGA 輝く国スポ」が開催されますことは、誠に喜ばしくご同慶の至りです。

滋賀県ならびに高等学校野球競技会硬式の部開催地の大津市をはじめ、関係の皆様方には、大会開催に当たり、種々ご尽力いただきました。関係各位に厚く御礼申し上げます。

さて、全国大会の硬式野球における滋賀県勢の活躍を振り返りますと、国民体育大会においては、第 34 回大会(1979 年 宮崎)で比叡山が初めて出場しました。

一方、春の選抜高等学校野球大会においては、第 11 回大会(1934 年)に膳所中が出場したのが始まりで、その後も大津商、彦根、八幡、彦根東、大津東、八幡商、甲賀、比叡山、能登川、瀬田工、長浜北、堅田、高島、伊香、野洲、石山、近江、北大津、膳所、滋賀学園、彦根総合、滋賀短大付がそれぞれ出場しました。また、新型コロナウィルスの影響で出場辞退した学校の代わりに繰り上げ出場した第 94 回大会(2022 年)で近江が準優勝する活躍をされました。

更に、夏の全国高等学校野球選手権大会においては、第 35 回大会(1953 年)に八日市が滋賀県勢として初出場したのが始まりで、第 67 回大会(1985 年)では甲西が県勢として初のベスト 4 に進出、第 83 回大会(2001 年)では近江が県勢として初の決勝進出、準優勝を飾りました。

本年の第 107 回全国高等学校野球選手権大会に出場した 8 校が、再び大津市に集い、相互の交流を深め、友情の輪を広げることが出来る機会を得たことは、誠に意義深いものと考えます。また、今年は新しい試みとして 7 イニング制を導入することとなりました。

滋賀県下はもとより全国の高校野球ファンの皆様の期待に応えられるような熱戦が繰り広げられるものと楽しみにしています。



歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長

滋賀県知事 三日月 大造

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から選手・役員の皆様をはじめ多くの方々をお迎えし、ここ滋賀県において「わた SHIGA 輝く国スポ」を開催できることは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

また、本大会の開催にあたり多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本大会は、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれることを目指しています。

大会における共生社会の実現に向けた取組や環境配慮の実践、さらには心のこもったおもてなしなど、長年培ってきた滋賀ならではの視点により、みんなが輝く大会にしてまいりたいと考えております。

本県は、我が国最大の湖である琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有するとともに、先人が人と人、人と自然のつながりの中で育んできた文化が今も脈々と息づいています。是非、滋賀のリズムに触れていただき、心のリズムを整え、本県での滞在を楽しんでください。

選手の皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮されますとともに、地域をこえた交流に触れ、本大会を思い出に残る素晴らしい大会にしていただきたいと存じます。

結びに、本大会に関わる皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げ、歓迎のことばといったします。



歓迎のことば

わたS H I G A 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長

大津市長 佐藤 健司

わたS H I G A 輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会 高等学校野球（硬式）競技会」が、大津市にて盛大に開催できることを大変嬉しく思います。全国各地より参加される選手・監督、大会関係者の皆様をはじめ、大津市にお越しいただく方々を、市民を代表して心から歓迎申し上げます。

わたS H I G A 輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会」は、昭和56年の「びわこ国体」以来、44年ぶりに滋賀県での開催となります。大津市では、選手の皆様が最大のパフォーマンスを発揮できるように会場の準備を整えるとともに、応援のぼり旗などの会場装飾づくりや地元食材を盛り込んだ「OTSU国スポこだわり弁当」の献立づくり、市内にちりばめられた歓迎装飾など大津市民をあげたおもてなしでお迎えできるように取り組んでまいりました。

また、各会場では、ボランティアによる大津の銘菓などのふるまいのほか、特に子どもたちが様々なスポーツに興味を持つてもらえるように、選手の皆様の競技を観戦することに加え、競技体験などの企画も準備いたしました。スポーツの素晴らしさを体現・体感し、皆様の記憶に残るような大会となりますことを、心より願っております。

さて、琵琶湖の恵みと比良・比叡の山々の緑に囲まれた大津市は、紫式部ゆかりの地である石山寺や三井寺、世界遺産比叡山延暦寺などの自然と歴史が調和した、豊かな文化が息づく地域です。今年は琵琶湖疏水施設が国宝・重要文化財に、坂本城跡が国史跡にそれぞれ指定されるなど、改めてその魅力が注目されています。また、近江牛や文化庁の「100年フード」の認定を受けた大津のうなぎなどの滋賀県・大津市の特産品や郷土料理に加え、琵琶湖でのクルーズなどのアクティビティもお楽しみください。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

一般財団法人滋賀県高等学校野球連盟

会長 田濃 良和

ようこそ滋賀におこしくださいました！心から歓迎申し上げます！

「湖国の感動 未来へつなぐ」のスローガンのもと、ここ滋賀県大津市に、全国各地からの代表校をお迎えして、「わた SHIGA 輝く国スポ」高等学校野球（硬式）競技会を開催できることは、滋賀県の高校野球に携わる者としてこの上ない喜びであります。お越しの選手の皆さん、関係者の皆さまを、滋賀県高等学校野球連盟を代表して心から歓迎申し上げます。

会場となるマイネットスタジアム皇子山は、滋賀県の高校球児が多くの名勝負を生み出してきた由緒ある球場です。本競技会では、第 107 回全国高等学校野球選手権大会において優秀な成績を収められた高校から、開催県滋賀の代表校を含む 8 校が選抜され、4 日間にわたり熱戦を繰り広げます。滋賀県高等学校野球連盟及びその加盟校は、最高のプレーができますよう出場校の皆さんを全力で応援いたします。日々の厳しい練習の積み重ねによって培われた技術とチームワークで存分に力を発揮され、この舞台での試合が思い出深いものとなることを願っております。また、皆さんのプレーで、感動が湖国の未来に広がることを期待しています。

ここ大津市は、日本一の湖・琵琶湖をはじめとした豊かな自然と、古くから水陸交通の要地として栄えてきた歴史のあるまちです。古の大津京、世界遺産比叡山延暦寺、紫式部ゆかりの石山寺、百人一首の聖地近江神宮など数々の文化遺産に恵まれています。選手の皆さんには、競技の合間にぜひ滋賀の風土や食文化、人情にもふれていただき、心身のリフレッシュにもつなげていただければ幸いです。

結びに、本競技会開催にあたり、日本高等学校野球連盟、滋賀県並びに大津市実行委員会をはじめ、運営にご協力いただきます多くの関係の皆さんに感謝申し上げますとともに、本競技会の成功を心より祈念申し上げ、歓迎のことばとします。

大 会 役 員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	あ べ 俊 子			
会 長	遠 藤 利 明			
副 会 長	益 子 直 美	田 中 不 二 夫	三 宮 恵 利 子	森 岡 裕 策
	室 伏 広 治	三 日 月 大 造	河 本 英 典	
顧 問	伊 藤 雅 俊	森 喜 朗	橋 本 聖 子	安 西 孝 之
	岡 崎 助 一	越 川 均	坂 元 要	勝 田 隆
	室 伏 由 佳	村 松 さ や か	湯 川 和 之	植 田 実
	櫻 井 由 香	鹿 島 丈 博	吉 岡 成 子	石 井 砂 織
	笠 師 久 美 子	飯 塚 悟	久 保 正 美	浦 美 奈 子
	木 平 芳 定	中 嶋 実	小 寺 洋	桐 木 陽 子
	旗 生 康 之	池 田 め ぐ み	工 藤 保 子	久 保 直 生
	藤 田 裕 司	藤 原 誠	室 城 信 之	金 子 日 出 澄
	貝 瀬 智 洋	森 晃	土 橋 登 志 久	石 丸 元 国
	多 氣 洋 平	井 崎 洋 志	鬼 頭 有 紀 子	長 谷 川 洋 子
	吉 田 長 寿	齋 木 尚 子	多 賀 恒 雄	安 藤 淳
	上 治 丈 太 郎	湧 永 寛 仁	上 原 絵 美	佐 藤 健 司
	馬 場 美 香	山 口 宏	南 和 文	宮 永 美 寿 津
	千 田 健 一	中 里 壮 也	岡 本 友 章	大 野 淳
	加 藤 出	田 村 恒 彦	蒔 田 実	山 崎 勝 洋
	浅 見 敬 子	山 口 徹 正	田 中 伸 周	村 田 利 衛
	建 部 彰 弘	市 野 保 己	丸 石 博	中 村 ゆ 里 子
	齋 藤 良 太 郎	谷 田 部 和 彦	木 村 博 美	井 上 弘
	今 川 啓 一	近 藤 重 和	池 谷 正 成	大 澤 明 美
	古 城 資 久	小 野 賢 二	園 山 和 夫	中 山 俊 行
	田 中 徹	知 念 か お る	出 口 弘 之	田 邊 哲 人
	城 門 政 文	前 川 恵	上 杉 晃 央	布 村 幸 彦
	茂 野 直 久	生 島 典 明	大 沢 陽 子	谷 藤 節 雄
	熊 谷 幸 一	千 葉 玲 佳	奥 山 雅 信	酒 井 祐 一
	藤 田 知 巳	北 條 俊 明	田 子 昌 之	新 井 彰
	山 崎 成 夫	塩 見 清 仁	田 名 部 高 雄	井 出 仁
	今 西 博 一	中 村 宏 平	松 本 智 広	森 山 喜 博
	南 部 則 雄	福 永 秀 樹	高 橋 繁 浩	山 本 健 次
	増 田 和 伯	猪 飼 敏 之	山 本 誠 三	松 本 恭 幸

船田 一彦	奥田 晃	横尾 英治	小西 慎太郎
近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一	渡邊 浩三
田中 稔	馬越 祐希	青木 章泰	城戸 英敏
藤本 武	小柳 勝彦	辛木 秀子	宮成 康蔵
藤本 格	岩元 幸成	平良 朝治	藤原 正樹
大河原 嘉朗	川上 隆弘	佐藤 廣子	奈良 隆
小菅 司	宇津木 妙子	菊 幸一	小林 久美
寺澤 正孝	山口 純子	武部 新	野 中厚
金城 泰邦	赤松 健	増子 宏	矢野 和彦
茂里 肇	浅野 敦行	有村 治子	上野 賢一郎
大岡 敏孝	嘉田 由紀子	北野 裕子	小寺 裕雄
こやり 隆史	斎藤 アレックス	武村 展英	宮本 和宏
目片 信悟	村井 泰彦	北村 嘉英	小椋 正清
伊藤 定勉	草野 聖地	杉浦 和人	永浜 明子
有森 裕子	鈴木 大地	宮本 恒靖	深澤 祐二
坂田 東一	三須 和泰	仲間 達也	川合 俊一
藤田 直志	三屋 裕子	富山 英明	馬場 益弘
砂岡 良治	金丸 恭文	安道 光二	河田 正也
豊田 章男	千 玄 室	中村 真一	牧島 かれん
村井 満	永谷 喜一郎	真砂 威	土田 雅人
町田 幸男	大野 正次	世耕 弘成	笹川 善弘
番匠 幸一郎	久保 素子	丹羽 秀樹	岩城 光英
寶 鑿	荒川 裕生	小谷 知也	達増 拓也
鶴田 有司	吉村 美栄子	北村 清士	大井川 和彦
福田 富一	遠藤 祐司	大野 元裕	熊谷 俊人
山本 博	岡田 伸浩	花角 英世	新田 八朗
馳 浩	杉本 達治	高野 剛	阿部 守一
田口 義隆	中谷 多加二	大村 秀章	伊藤 歳恭
西脇 隆俊	高橋 知史	齋藤 元彦	池田 誠也
宮崎 泉	林 昭男	丸山 達也	越宗 孝昌
苅田 知英	村岡 嗣政	後藤田 正純	槙田 實
大塚 岩男	服部 誠太郎	山口 祥義	大石 賢吾
甲斐 隆博	麻生 益直	日隈 俊郎	塙田 康一
玉城 デニー			

参

与

糸井 圭子
井狩 辰也

大杉 住子
今江 政彦

赤井 康彦
岩崎 和也

有村 國俊
小河 文人

小川 泰江	奥村 芳正	海東 英和	加藤 誠一
河井 昭成	川島 隆二	河村 浩史	桐田 真人
九里 学	桑野 仁	駒井 千代	佐口 佳恵
重田 剛	柴田 栄一	柴田 清行	清水 鉄次
清水 ひとみ	白井 幸則	周防 清二	菅沼 利紀
田中 英樹	田中 誠	田中 松太郎	谷 成隆
谷口 典隆	富波 義明	中川 雅史	中沢 啓子
中山 和行	野田 武宏	節木 三千代	本田 秀樹
村上 元庸	木沢 成人	森重 重則	東 勝
岸本 織江	土井 真一	窪田 知子	野村 早苗
塚本 晃弘	森 和之	園田 三恵	松田 千春
東郷 寛彦	中村 守	中村 達也	山田 忠利
奥山 光一	岡田 晓人	中田 佳恵	伊吹 信人
白井 稔	藤原 久美子	正木 隆義	保田 誠
小林 雅史	池内 久晃	原 陽一	北川 純二
佐藤 健司	田島 一成	浅見 宣義	小西 理
橋川 渉	森中 高史	竹村 健	岩永 裕貴
櫻本 直樹	松浦 加代子	今城 克啓	角田 航也
堀江 和博	西田 秀治	有村 国知	寺本 純二
久保 久良	藤田 善久	甲津 和寿	堤 清司
高橋 祥二郎	市田 良夫	藤堂 寛	野村 昌弘
熊倉 正志	涌井 努	岸 智昭	武田 英明
山本 博一	寺村 義伸	金澤 博文	山本 順
杉原 真也	竹林 幸祥	山田 貴司	上西 保
一圓 泰成	石井 太	川戸 良幸	田畑 太郎
高橋 健太郎	草野 とし子	三木 恒治	市川 忠穂
上村 照代	富長 弘宣	佐野 智哉	太田 千恵子
赤井 弘和	大西 孝雄	崎山 美智子	
委員長	山本 浩		
副委員長	岩田 史昭	田中 秀和	辻 瞳 弘
総務委員	松永 敬子	稻垣 公雄	笠野 英弘
	菅原 哲朗	田崎 博道	松田 基子
	山澤 文裕	吉田 崇	出崎 和夫
	熊谷 利彦	佐橋 誠	田内 慎也
	江橋 千晴	加藤 弘和	小澤 大樹
	青木 克憲	安井 和治	西島 義典

委 員	平 野 了	高 橋 聖 一	吉 村 政 弘	若 月 等
	松 本 康 夫	福 土 幸 洋	栗 原 崇	細 野 光 史
	渡 邊 圭 太 郎	佐 久 間 裕 司	品 田 奥 義	濱 野 勉
	寺 泽 淳	黒 川 重 男	舟 喜 信 生	高 野 修
	中 梶 秀 則	安 藤 正 美	加 藤 憲 二	宮 川 良 輔
	鈴 木 章 広	川 口 巍	和 田 潔	岡 泉 茂
	田 口 大 祐	平 井 宏 治	岸 川 剛 之	西 原 斗 司 男
	菅 原 正 幸	高 橋 昇	長 南 哲 生	衛 藤 敬 輔
	渡 辺 久 雄	三 井 千 壽	鈴 木 信 吾	山 中 博 史
	井 本 亘	関 根 明 子	中 山 二 三 男	越 前 浩 司
	吉 田 由 美 子	杉 本 好 二	東 野 真 理 子	川 口 雅 三
	金 子 和 裕	野 口 友 里	品 治 惠 子	富 澤 佑 也
	政 岡 航 大	坊 百 花	小 河 原 百 映	田 口 雅 紀
	寺 垣 佑 介	田 中 遥 大	宇 高 章 広	近 藤 潤
	南 野 芳 広	池 本 佳 子	横 江 弘 昭	沼 波 輝
	門 久 仁 裕	清 水 直 子	高 井 和 紀	見 田 茂 紀
	加 藤 雄 樹	鈴 木 敦	瀬 谷 尚 男	大 貫 大 輔
	太 田 真 美	高 野 正 規	岩 垣 直 史	深 谷 祐 紀
	金 田 貴 人	新 保 賀	戒 田 由 香 里	児 玉 晶 香
	村 松 達 也	井 澤 克 行	林 剛 史	稻 葉 晴 伸
	杉 浦 美 紀	藤 田 隆 司	曾 我 学	木 原 哲 也
	高 橋 健 二	吉 村 宗 浩	中 嶋 純 也	前 田 康 博
	松 本 守 正	松 本 綾 子	田 口 新 也	河 口 英 史
	久 次 米 和 成	高 田 孝 行	辻 岡 英 幸	前 田 義 朗
	笠 井 康 行	尾 鶯 一 成	松 山 度 良	濱 本 昌 宏
	吉 野 賢 一 郎	横 山 美 和	山 元 尚 史	宮 城 直 人
	高 野 瑞 洋	遠 藤 信 哉	千 葉 雅 也	菅 間 裕 晃
	須 藤 勇 司	角 田 真 司	柄 澤 宏 之	竹 内 延 和
	東 瀬 義 人	酒 井 雅 洋	碓 井 稔	武 田 知 已
	井 上 哲	今 後 元 彦	沼 田 守 弘	田 部 長 右 衛 門
	竹 内 俊 勝	松 井 守	吉 岡 直 彦	刈 谷 好 孝
	寺 崎 雅 已	荒 木 健 治	平 江 公 一	黒 木 淳 一 郎
	渡 嘉 敷 通 之	綾 部 吉 也		

競技会役員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	佐 藤 健 司				
会 長	寶 馨				
副 会 長	尾 上 良 宏	北 村 聰	山 本 秀 明	辻 中 祐 子	
	小 野 清 司	田 濃 良 和	伊 藤 義 樹		
顧 問	佐 山 和 夫	高 橋 順 二	西 岡 宏 堂	田 名 部 和 裕	
	井 上 康 雄	氏 家 弘 二	北 村 雅 敏	矢 橋 佳 之	
	津 島 節	菅 原 基	春 日 川 孝	田 口 康	
	安 部 康 典	酒 井 祐 治	深 谷 靖	石 島 祐 太 郎	
	上 原 清 司	齋 藤 明 博	早 川 貴 英	小 山 貢	
	布 施 和 久	加 藤 幸 一	岩 崎 啓	久 保 村 智	
	亀 谷 卓 朗	居 村 吉 記	松 島 真 章	石 川 徹	
	鶴 田 昭 博	水 谷 正 樹	西 脇 勝 己	野 村 善 之	
	川 口 伊 佐 夫	橋 本 智 稔	村 井 博 樹	西 上 嘉 人	
	國 岡 進	水 津 則 義	西 山 正 宏	折 田 裕 之	
	久 保 田 力 崎	平 尾 浩 一 郎	多 田 巧	二 神 弘 明	
	山 岡 晶	古 閑 長 彦	原 口 哲 崎	長 池 一 德	
	坂 本 憲 昭	花 田 修	香 川 健 二	黒 木 誠	
	眞 榮 田 義 光	草 野 聖 地	島 崎 輝 久		
参 与	細 川 俊 行	細 川 力 男	葉 月 陽	浜 奥 修 利	
	棄 野 靖 七	青 山 三 四 郎	井 元 潔	奥 村 功	
	改 田 勝 彦	笠 谷 洋 佑	嘉 田 修 平	川 口 正 德	
	草 川 肇	幸 光 正 嗣	小 島 義 雄	佐 藤 弘	
	杉 浦 智 子	竹 内 照 夫	竹 内 基 二	田 中 知 久	
	田 中 康 博	谷 祐 治	出 町 明 美	寺 田 英 幸	
	寺 谷 吉 寛	中 川 哲 也	中 田 一 子	八 田 憲 児	
	林 ま り	原 田 優 太	伴 孝 昭	日 隈 慈	
	福 永 英 晶	船 本 力	森 川 え り な	森 脇 謙 一	
	田 村 靖 二	周 防 美 智 子	大 西 祐 司	関 理 子	
	國 松 瞳 生	北 潤 弘 康	初 田 久 德	内 川 直 樹	
	内 田 一 成	川 島 英 和	小 野 昌 幸	中 村 由 紀 子	
	菊 池 真 宏	岡 嶴 一 郎	宿 谷 繁 生	三 國 昌 克	
	小 島 浩 幸	南 堀 弘	清 水 美 幸	弓 坂 則 行	
	高 野 早 人	團 初 太 郎	目 片 清	安 西 将 也	

参	与	中山 敦生 津田 新三 荒谷 善夫 渡辺 一生 こやり 隆史 米田 博文 杉原 真也 大西 延明 前川 賢慈 上品 充朗	野々口 義信 松尾 房郎 奥村 芳正 藤原 健二 石井 智 岸 智昭 田畠 太郎 北川 有紀 江竜 康成	北村 茂 井上 欣也 宇野 正信 二宮 康人 久保 洋司 田矢 隆一 大森 聖一 田中 勉 横井 正弘	河本 英典 前田 康一 神野 佳樹 小椋 正清 西田 元 人見 和宏 八木 正樹 金子 博美 村中 隆之
委員長		井本 亘			
副委員長		大塙 黙	大久保 雅生	雲林院 寿文	
委員		内藤 雅之 海老 久美子 堅田 外司昭 斎藤 利江子 馬場 光仁 榎戸 努 野間 貴之 杉原 茂一 下垣 隆 馬場 義之信 川上 新一 原田 裕 伴 拓也 吉田 聰	田靡 幸夫 熊谷 理恵子 堤 保 彰 野村 和史 土井 一弥 中川 秀樹 桑嶋 裕二 板橋 正佳 金原 俊介 木地 貴哉 中川 広之 久保 匠平 中山 達也 打谷 桂子	福留 和年 根岸 雅則 尾崎 泰輔 中島 隆信 横山 泰之 鶴田 賀宣 兒玉 正剛 黒川 精 八田 和晃 田部 勝彦 大堤 雅生 菊田 昌大 八木 孝夫	細川 典宏 正木 陽 志方 浩文 武内 紀子 和田 史穂 高津 亮 北川 英樹 田中 智也 北山 智基 神谷 信太郎 佐野 はるな 奥村 健介 五色 綾

競 技 役 員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

総務委員長	大久保 雅生				
総務副委員長	板橋 正佳	神谷 信太郎			
総務委員	古谷 純一	阪浦 智美	玉熊 康成	田濃 良和	
	横井 正弘	馬場 光仁	小森 年展	五色 綾	
進行委員	板橋 正佳				
記録報道委員	中山 達也	古澤 和樹	越川 貴文	川野 晴亮	
	松澤 憲司				
放送委員	久保 匠平				
掲示委員	上林 裕樹				
チーム担当委員	神谷 信太郎	田中 智也	下垣 隆	八田 和晃	
	平木 隼也	佐竹 章由	吉田 拓杜	鈴木 克昌	
	山本 智之				
球場委員	奥村 健介	福永 隆幸	堀田 拓海	岡崎 聰司	
	藤居 秀	富永 大聖			
式典表彰委員	板橋 正佳	神谷 信太郎	久保 匠平		
補助員担当委員	保木 淳				
チーム帯同委員	加藤 史典	藤木 泰仁	清水 雄介	安田 智洋	
	鈴村 多偉樹	平野 裕介	辻田 力哉	川越 健一郎	
練習会場委員	西川 史哉	岸 隆雄	河畠 成英		
審判長	北川 英樹				
副審判長	善積 重文	肥田木 卓也			
審判委員	磯辺 隆一	園田 大輔	上原 譲	出口 幸二	
	太田 和宏	久保 博之	中村 圭吾	井狩 誠	
	小林 剛昇	川端 健太郎	西津 龍二	横田 浩司	
	奥居 剛	細居 昌朋	村田 健	押谷 卓磨	
	伊藤 浩	佐々木 喬俊	谷村 泰宏		

競技補助員

2025年7月31日現在

(順不同)

滋賀県立堅田高等学校 滋賀県立大津商業高等学校
学校法人延暦寺学園 比叡山高等学校 学校法人純美禮学園滋賀短期大学附属高等学校

競技会係員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実施本部職員一同

競技会補助員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市ボランティア一同

大会実施要項

総 則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

滋賀県で開催する第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」は「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれる大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技 (37 競技)

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技 (7 競技)

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ (26 競技)

インディアカ、ウォーキング、ウォーキングフットボール、小倉百人一首競技かるた、カローリング、還暦軟式野球、キンボールスポーツ・レクリエーション、里湖で地域を結ぶウォーキング、スポーツウェルネス吹矢、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ拳法、スポーツチャンバラ、スリースマイルゴルフ、スローイングbingo、ソフトバレーボール、ネットでポンポイ、ノルディック・ウォーク、ひこねスーパーカロム、ビリヤード、フットサル、マリンスポーツフェスティバル、ミックスバレー ボール、モルック、ユニカール、ユニホック、ラジオ体操第3（初代・二代目）

(4) 特別競技 (1 競技)

高等学校野球

2 会期および会場地

(1) 正式競技・特別競技 (15市、4町：計19市町)

会期	会場地
2025年9月28日（日） ～10月8日（水） 〔11日間〕	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、大阪府豊能郡能勢町、兵庫県三木市
2025年9月6日（土） ～9月15日（月） 〔10日間〕	大津市、長浜市、草津市 ※ 水泳、体操、バレーボール（ビーチバレーボール）競技会は上記会場地で実施
2025年9月21日（日） ～9月25日（木） 〔5日間〕	東近江市、京都府向日市 ※ 自転車（トラック・レース、ロード・レース）競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技 (7市：計7市町)

会期	会場地
2025年8月23日（土） ～9月21日（日）	長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市

(3) デモンストレーションスポーツ (13市、1町：計14市町)

会期	会場地
2025年4月12日（土） ～9月14日（日）	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、多賀町

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査およびアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」および別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」(TUE) の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名および親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準

選手および監督の参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 79 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県および年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/> 】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手および監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校に在籍する学生または生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に 1 年以上在籍していること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」または「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)b について、大学および専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理および難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手および監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 2023 年開催の特別大会または第 78 回大会（都道府県大会およびブロック大会を含む）において選手または監督として参加した者は、次の場合を除き、2023 年開催の特別大会または第 78 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

b 結婚または離婚に係る者

[注] a および b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記 1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記 3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記 5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記 6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
- b 結婚または離婚に係る者
- c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

- d JOCエリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

- e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

- f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会および本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督ならびに本部役員帶同のスポーツドクターおよびアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 都道府県大会およびブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ウ) 勤務地

(エ) 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校

の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2025年4月30日以前から本大会終了時（2025年10月8日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、または通学していかなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

- (ア) 成年種別に参加する者は、2007年4月1日以前に生まれた者とする。
 - (イ) 少年種別に参加する者は、2007年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者とする。
 - (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2025年4月1日を基準とする。
- イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会および当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）および女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

- (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。
- (2) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。
- (4) 各正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (5) 各競技の各種別および各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、または都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

8 参加申込方法

- (1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）および競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会またはブロック大会において選抜された者および公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込むものとする。

- (2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

- (3) 参加申込締切日

締切日	競技
2025年 8月20日(水) 【12競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、レスリング、セーリング、自転車、相撲、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2025年 9月4日(木) 【27競技】	陸上競技、サッカー、テニス、ホッケー、ボクシング、バレーボール（6人制）、バスケットボール、ウェイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（観察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区分	負担金
少年の種別に参加する選手	3,000円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6,000円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2025年9月5日(金)

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
 - ア 参加選手 500 名以上の場合には、団長、総監督および総務ほか、計 20 名以内とする。
 - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 15 名以内とする。
 - ウ 参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。
なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。
なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)および(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 観察員

- (1) 観察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2026 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定または内定している県については、青森県 100 名以内、宮崎県および長野県 60 名以内、群馬県および島根県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の観察員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 AD カードの交付

都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督および役員、大会役員・競技会役員および競技団体が指定した競技役員、大会主催者および競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報および肖像権に関する取り扱い

日本スポーツ協会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会および国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポーツ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報および肖像権の取り扱いについて以下のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取り扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポーツ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラムおよび競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポーツ関係機関・団体および報道機関等による新聞・雑誌および関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポーツ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝および上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポーツ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書および関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポーツ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポーツ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映およびインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者および大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会およびブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会および中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会および中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は1人1競技に限る。

(4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会および当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7) 競技運営に差し支えない限り、滋賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会および都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会および本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、観察員ならびにその他選手団役員とする。

(2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

(3) 納入締切日および納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ

通知する。

19 わた SHIGA 輝く国スポの取組

(1) 環境に配慮した大会の実施

スポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、滋賀県に受け継がれている身の回りの生活から自然環境を考える取組を県民や企業、大会に関わるすべての参加者が実践することで、「人と人、人と地域、人と自然」の繋がりを深めることができるよう取り組む。

(2) おもてなしと滋賀の魅力発信

豊かな自然や歴史、文化、芸術、祭り、伝統芸能、特産品などの地域資源、湖上スポーツをはじめとした滋賀ならではのスポーツ環境など、滋賀の魅力を発信し、来県者が滋賀での滞在を楽しむことができるよう取り組む。

(3) 誰もが主役として輝ける取組の推進

年齢や性別、障害の有無などを問わず、誰もが一層身近にスポーツを楽しむことができる環境をつくり、誰もがボランティアや大会関連行事等に積極的に参加できる環境をつくるなど、それぞれのスタイルで「する」「みる」「支える」の体験ができる大会となるよう取り組む。

20 その他

(1) 参加申込および宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、または、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項および同細則による。

別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者および「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕および別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2) - ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2025年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者
 - ア JOC オリンピック強化指定選手
 - イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者
 - ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会およびブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手またはチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」または「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、または自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(③)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者について

は、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていないとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

別記6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていないとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から当該大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていないとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学して

いる実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) -③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

- <例>
- 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合
 - 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合
 - 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

実施要項

- 1 期日 (1) 硬式 2025年9月29日(月)から10月2日(木)まで(4日間)
(2) 軟式 2025年9月29日(月)から10月2日(木)まで(4日間)

種目	9月29日(月)	9月30日(火)	10月1日(水)	10月2日(木)
硬式	1回戦	準決勝	休養日	決勝
軟式	1回戦	準決勝	休養日	決勝

- 2 会場 大津市(硬式) マイネットスタジアム皇子山
(皇子山総合運動公園野球場)
甲賀市(軟式) 甲賀市民スタジアム
高島市(軟式) 高島市今津総合運動公園今津スタジアム

3 種別(種目)及び参加人員

種目	責任教師	監督	選手	参加都道府県	小計	合計(人)
硬式	1	1	18	8	160	304
軟式	1	1	16	8	144	

4 競技上の規程及び方法

(1) 適用規則は、2025年度公認野球規則、アマチュア野球内規(2025年)、高校野球特別規則(2025年版)並びに大会特別規則による。

(2) 試合方法

ア 7イニング制とする。

イ トーナメント方式とする。3位決定戦は行わない。

ウ 点差によるコールドゲーム(5回終了以降10点差)を採用する。

エ 降雨等により試合が成立しなかった場合、その試合を継続試合とする。

オ 試合が7回終了時点で同点となった場合は、タイブレーク制度を採用する。

(3) 審判委員は、公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱する。

(4) 使用球

ア 硬式は、2025年度公認野球規則によって定められた規格を有するボールを使用する。

イ 軟式は、公益財団法人全日本軟式野球連盟の公認球M号球を使用する。

(5) 競技服装

従来のユニフォームのマークのほか、その都道府県で定められた標識は、見やすいところであれば(チーム全員が同じ位置に付けること)どこでもさしつかえないが、なるべく右袖につけること。

背番号は、選手権大会で使用したものに準ずるものにつけてもよい。

(6) 組合せ

公益財団法人日本高等学校野球連盟で各委員立会いの上、代理抽選によって決定する。

5 参加校の選出

(1) 選出方法

ア 硬 式

公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱した選考委員会において、下記事項により決定することを原則とする。

(ア) 第 107 回全国高等学校野球選手権大会準決勝に出場したチーム ····· 4 校

※同一都道府県から 2 校が準決勝に進出した場合は、選考委員会でうち 1 校を選出し、「(ウ) その他」での選出を 1 校増とする。

(イ) 開催都道府県代表チーム[(ア)に開催県が含まれない場合] ····· 1 校

※開催都道府県代表チームが準決勝に進出した場合は、「(ウ) その他」での選出を 1 校増とする。

(ウ) その他 ····· 3 校

(ウ)は、第 107 回全国高等学校野球選手権大会に出場したチームの中から、上記(ア)、(イ)のチームの所属地区外から参加校を選出することを原則とし、地区外からの選出が難しい場合は、同大会 3 回戦進出以上のチームの中から戦いぶり等をもとに選考委員会で選出する。

イ 軟 式

公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱した選考委員会において、下記事項により決定することを原則とする。

(ア) 第 70 回全国高等学校軟式野球選手権大会準決勝に出場したチーム ····· 4 校

(イ) 開催都道府県代表チーム[(ア)に開催県が含まれない場合] ····· 1 校

※開催都道府県代表チームが準決勝に進出した場合は、「(ウ) その他」での選出を 1 校増とする。

(ウ) その他 ····· 3 校

(ウ)は、第 70 回全国高等学校軟式野球選手権大会に出場したチームの中から、上記(ア)、(イ)のチームの所属地区外から参加校を選出することを原則とし、地区外からの選出が難しい場合は、同大会 1 回戦の戦いぶり等をもとに選考委員会で選出する。

(注) 上記に該当したチームでも、高等学校野球チームとして好ましくないもの、又は高等学校野球選手として好ましくない選手を有するチームは、出場を取り消し、補欠校を出場させる。ただし、参加申込み締切後は補欠校を選出せずに棄権扱いとする。

(2) 参加校の決定時期

ア 硬 式 第 107 回全国高等学校野球選手権大会中に選考委員会を開いて決定する。

イ 軟 式 第 70 回全国高等学校軟式野球選手権大会中に選考委員会を開いて決定する。

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則 5 及び公益財団法人日本高等学校野球連盟で定めた令和 7 年度大会参加者資格規程（高等学校野球部員のプロ野球団との関係についての規定及び国民スポーツ大会参加者資格規定を含む）による。

ただし、令和 7 年度大会参加者資格規程第 5 条第 2 項又は第 7 項で認められた年齢超過選手は、総則 5-(3) の選手の年齢基準の制限にかかわらず、特例として出場することができる。

7 表 彰

各種別の第1位から第3位までに、賞状を授与する。

8 参加申込み方法

総則8に定めるもののほか、次による。

- (1) 所定のWebページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2025年9月4日(木)までに申込み手続きを完了すること。締切期限までに提出しないチームは、出場を辞退したものとして取り扱う。
- (2) 締切期限以降は、所定のWebページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。
- (3) 参加申込み締切後の選手の変更は、死亡、疾病、傷害、転校、秋季大会との日程重複等の特別な場合のみ認める。特別な事情で選手を変更する場合は、それを証明する書類を添付し、当該都道府県スポーツ協会を通じて次のとおり行う。

ア 提出期日

- (ア) 硬式 2025年9月28日(日) (代表者会議開催前まで)
(イ) 軟式 2025年9月28日(日) (代表者会議開催前まで)

イ 提出先

- (ア) 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀一丁目22番25号
中沢佐伯記念野球会館内
公益財団法人日本高等学校野球連盟
TEL 06-6443-4661 FAX 06-6443-1593
(イ) 〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2番1号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局
(滋賀県国スポ・障スポ大会局 競技運営室 競技第一係)
TEL 077-528-3324 FAX 077-528-4836
MAIL kokusupo-sanka@pref.shiga.lg.jp

(ウ) 硬式

- 〒520-0805 滋賀県大津市石場10番53号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局
(大津市国スポ・障スポ大会局 大会競技課)
TEL 077-528-0310・0320 FAX 077-522-7766
MAIL koku-spo.baseball@city.otsu.lg.jp

軟式

- 〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口6053番地
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ甲賀市実行委員会事務局
(甲賀市国スポ・障スポ推進室 競技運営係)
TEL 0748-69-2253 FAX 0748-69-2293
MAIL kokusupo-hr-baseball@city.koka.lg.jp

なお、(イ)(ウ)については、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込み情報を修正すること。

9 参加上の注意

- (1) 参加校は、代表者会議当日までに必ず所定の宿舎に到着し、第79回国民スポーツ大会高等学校野球競技本部〔8の(3)イ(イ)の実行委員会事務局〕に連絡すること。
- (2) その他の注意
 - ア 参加校は、母校を出発してから帰校するまで一切他校と試合することはできない。
 - イ 参加校は、必ず1名の責任教師が引率者となり、大会期間中チーム及び選手の全ての行動に対して責任を負うものとする。
 - ウ 健康管理
 - (ア) 疾病又は試合中の負傷等により、主催者が試合出場を不適当と認めたときは、当該選手の試合出場を停止する。
 - (イ) その他健康管理上、試合をすることが不適当と主催者が認めたときは、その試合を停止する。
 - エ 参加校は、公益財団法人日本高等学校野球連盟が定めた野球用具の使用制限に適合した野球用具を使用すること。

10 その他

(1) 組合せ抽選会

日 時 2025年9月10日（水） 午後1時
場 所 公益財団法人日本高等学校野球連盟
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀一丁目22番25号
中沢佐伯記念野球会館内
TEL 06-6443-4661 FAX 06-6443-1593

(2) 代表者会議

ア 硬式

日 時 2025年9月28日（日） 午後5時
場 所 びわ湖大津プリンスホテル
〒520-8520 滋賀県大津市におの浜四丁目7番7号
TEL 077-521-1111 FAX 077-521-1110

イ 軟式

日 時 2025年9月28日（日） 午後5時
場 所 びわ湖大津プリンスホテル
〒520-8520 滋賀県大津市におの浜四丁目7番7号
TEL 077-521-1111 FAX 077-521-1110

(3) 表彰式

ア 硬式

(ア) 3位表彰

日 時 2025年9月30日（火） 準決勝終了後
場 所 マイネットスタジアム皇子山（皇子山総合運動公園野球場）
〒520-0037 滋賀県大津市御陵町4番1号

(イ) 表彰式

日 時 2025年10月2日（木） 決勝終了後
場 所 マイネットスタジアム皇子山（皇子山総合運動公園野球場）

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町4番1号

イ 軟 式

(ア) 3位表彰

日 時 2025年9月30日（火） 準決勝終了後
場 所 甲賀市民スタジアム
〒528-0051 滋賀県甲賀市水口町北内貴230番地
日 時 2025年9月30日（火） 準決勝終了後
場 所 高島市今津総合運動公園今津スタジアム
〒520-1655 滋賀県高島市今津町日置前3110番地

(イ) 表彰式

日 時 2025年10月2日（木） 決勝終了後
場 所 甲賀市民スタジアム
〒528-0051 滋賀県甲賀市水口町北内貴230番地



[1]高等学校野球競技(硬式)

大津市

競技日程

代表者会議	9月28日(日)	17時00分	びわ湖大津プリンスホテル
-------	----------	--------	--------------

会場:マイネットスタジアム皇子山(皇子山総合運動公園野球場)

	9月29日(月) 1回戦	9月30日(火) 準決勝	10月1日(水) 休養日	10月2日(木) 決勝
第1試合	8:30	10:00		10:00
第2試合	10:40	12:30		
第3試合	12:50			
第4試合	15:00			

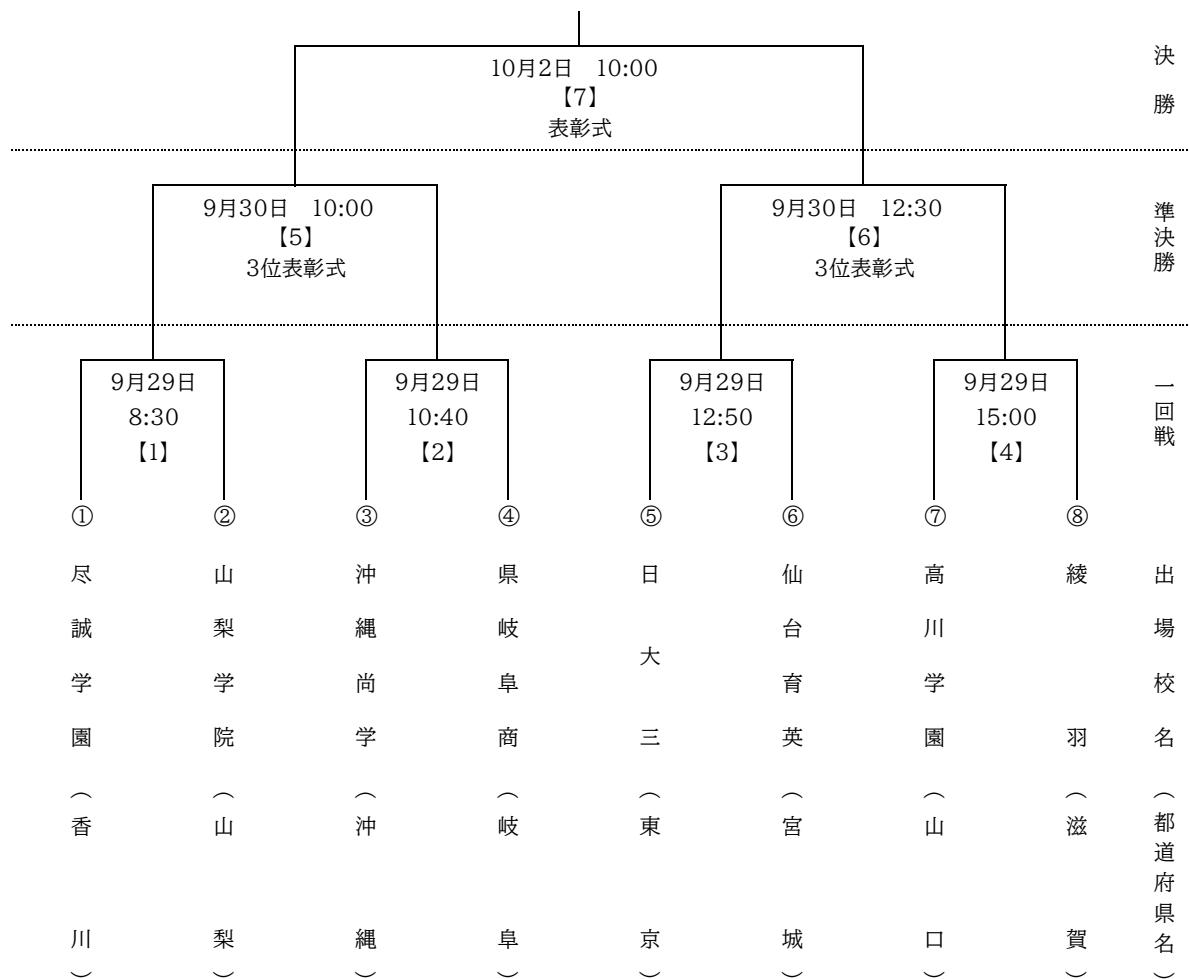
開始式	なし
3位表彰式	9月30日(火) 準決勝終了後
表彰式	10月2日(木) 決勝戦終了後

組合せ表

9月29日(月)から10月2日(木)まで4日間

会場:マイネットスタジアム皇子山(皇子山総合運動公園野球場)

【】はイベントナンバー



式次第

順	3位表彰式次第
—	選手・大会関係者整列
1	開式通告
2	3位入賞校入場
3	賞状・メダル授与
4	歓送のことば
5	閉式通告
6	3位入賞校退場
7	大会関係者退場

順	表彰式次第
—	選手・大会関係者整列
1	開式通告
2	入賞校入場
3	賞状・メダル授与
4	競技会会長あいさつ
5	歓送のことば
6	国旗降納
7	大会旗・団体旗・県旗・市旗降納
8	競技会終了宣言
9	閉式通告
10	選手退場
11	大会関係者退場

出場校一覧

都道府県名	学校名
1 宮城県	仙台育英学園高等学校
2 東京都	日本大学第三高等学校
3 山梨県	山梨学院高等学校
4 岐阜県	県立岐阜商業高等学校
5 山口県	高川学園高等学校
6 香川県	尽誠学園高等学校
7 沖縄県	沖縄尚学高等学校
8 滋賀県	綾羽高等学校

仙台育英学園高等学校

宮城県仙台市宮城野区宮城野2-4-1

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	猿橋 善宏				
	監督	須江 航				
1	投手	吉川 陽大	3	175	73	左左
2	捕手	川尻 結大	3	172	85	右右
3	一塁手	和賀 颯真	3	171	77	右右
4	二塁手	中岡 有飛	3	180	78	右右
5	三塁手	高田 庵冬	3	183	88	右右
6	遊撃手	砂 涼人	1	168	63	右右
7	左翼手	土屋 璞空	3	178	80	右左
⑧	中堅手	佐々木 義恭	3	174	79	右左
9	右翼手	田山 纏	2	177	78	右左
10	控	井須 大史	2	180	82	左左
11	控	梶井 淳斗	2	174	69	右左
12	控	倉方 淳都	1	177	70	右右
13	控	今野 琉成	2	172	76	右左
14	控	有本 豪琉	1	175	70	右右
15	控	山中 琉空	3	170	73	右右
16	控	原 亜佑久	3	180	77	右左
17	控	尾形 陽聖	3	184	78	右右
18	控	刀祢 悠有希	3	180	86	右右

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1905年
- 野球部創部年 1930年
- 宮城大会

2回戦	8 - 0	角	田
3回戦	2 - 0	柴	田
準々決勝	3 - 2	東	北
準決勝	8 - 1	仙台第一	
決勝	10 - 0	東北学院榴ヶ岡	
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

1回戦	5 - 0	鳥取城北	
2回戦	6 - 2	開星	
3回戦	3 - 5	沖縄尚学	
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。

2022年の東北勢初の全国制覇から3年。今夏は4季ぶりに甲子園に出場し、2勝を挙げた。

エース左腕吉川は常時140キロ超の速球と横滑りする変化球が武器。全3試合に登板して26回超で31奪三振、防御率1.01と大車輪の活躍だった。1回戦で鳥取城北(鳥取)を完封。3回戦は優勝校の沖縄尚学(沖縄)の左腕末吉と延長11回の投手戦を繰り広げた。

打線はエンドランやスクイズなど、作戦の選択肢が豊富だ。高田は下位打線ながら豪快なスイングで、打率4割1分7厘で1本墨打を放った。4番捕手の川尻は勝負強くチームトップの4打点を挙げた。遊撃手の砂、二塁手の有本の1年生コンビは、開星(島根)との2回戦で芸術的な併殺を披露し、甲子園をわかつせた。



日本大学第三高等学校

東京都町田市団師町11-2375

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	中島 健人				
	監 督	三木 有造				
1	投 手	近藤 優樹	3	171	83	右右
2	捕 手	竹中 秀明	3	182	93	右右
3	一 墓 手	田中 謙	2	180	98	右右
4	二 墓 手	櫻井 春輝	3	177	64	右左
5	三 墓 手	安部 翔夢	3	175	76	右右
6	遊 撃 手	松岡 翼	3	170	65	右右
7	左 翼 手	鳩田 大翔	3	180	82	右左
⑧	中 墓 手	本間 律輝	3	178	78	右左
9	右 翼 手	松永 海斗	3	179	68	右右
10	控	川上 幸希	3	176	75	右右
11	控	山口 凌我	3	180	68	右右
12	控	田中 将大	3	177	78	右右
13	控	永野 翔成	3	182	86	右右
14	控	古関 健人	3	178	85	右右
15	控	豊泉 悠斗	3	178	76	右右
16	控	前川 凌太	3	180	67	右左
17	控	石井 寛也	3	184	87	右右
18	控	谷津 輝	3	181	76	右右

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1929年
- 野球部創部年 1929年
- 西東京大会

3回戦	5 - 0	多摩工科
4回戦	10 - 0	田無
5回戦	13 - 3	東大和南
準々決勝	11 - 1	八王子実践
準決勝	4 - 2	八王子
決勝	8 - 4	東海大菅生
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

2回戦	3 - 2	豊橋中央
3回戦	9 - 4	高川学園
準々決勝	5 - 3	関東第一
準決勝	4 - 2	県岐阜商
決勝	1 - 3	沖縄尚学
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。
打線と投手陣の好投がかみ合い、夏の全国選手権大会で14年ぶりに決勝に進出した。
チームの柱は夏の甲子園全5試合で登板した近藤。直球は140キロに満たないが、要所で内角を突く制球力に遅い変化球を織り交ぜて凡打を打たせる。短いイニングを投げた山口や根本、谷津にも安定感がある。
チーム打率2割9分1厘は4強入りした中で最も高いが、19犠打飛も最も多い数字。手堅い攻撃で得点を重ねてきた。
牽引するのは4番の田中謙と、勝負強さがある主将で3番の本間だ。田中謙は大会唯一となる2本塁打と、パワーでは随一。本間は大会が進むにつれて復調し、決勝で適時打を含む3安打。6番の捕手、竹中も打率4割と、好機で回せば期待できる。



山梨学院高等学校

山梨県甲府市酒折3-3-1

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	吉田 健人				
	監 督	吉田 洋二				
1	投 手	菰田 陽生	2	194	100	右右
2	捕 手	横山 悠	3	178	74	右右
3	一 墓 手	川本 喜一	3	174	79	右右
4	二 墓 手	萬場 翔太	3	172	76	右右
⑤	三 墓 手	梅村 団	3	180	80	右右
6	遊 撃 手	平野 天斗	3	174	72	右右
7	左 翼 手	宮川 真聖	3	173	75	右左
8	中 堅 手	田村 鳩丈郎	3	168	75	右右
9	右 翼 手	鳴海 柚菜	3	175	78	右左
10	控	山口 桔平	3	185	84	右右
11	控	檜垣 瑠輝斗	2	176	65	左左
12	控	足立 康祐	3	178	80	右左
13	控	大石 康耀	3	173	77	右左
14	控	岩城 敦仁	3	170	70	右右
15	控	高橋 英登	3	177	80	右右
16	控	石井 陽昇	2	177	81	右右
17	控	小澤 琉次	3	174	74	左左
18	控	木田 倫大朗	2	170	73	左左

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1956年
- 野球部創部年 1957年
- 山梨大会

2回戦	11	—	1	甲府	東延
準々決勝	11	—	0	身	
準決勝	7	—	0	甲府	工業
決勝	4	—	3	日本	航空
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

2回戦	6	—	2	聖光	学院
3回戦	14	—	0	岡山	学芸館
準々決勝	11	—	4	京都	国際
準決勝	4	—	5	沖縄	尚学

● チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。
夏の甲子園で4強入りし、チーム最高成績を刻んだ。選抜優勝の経験はあるが、これまで夏は2回戦止まり。苦しんできた歴史を塗り替えた。

原動力は、4試合平均で8.75得点を記録した強力打線だ。主将の梅村や萬場ら下級生から経験を積む選手が並び、バスターを使つたしたかな攻撃が光った。

4番で捕手の横山は1本塁打を含む打率6割6分7厘。大会タイ記録の8打数連続安打をマークし、打線を引っ張った。

投げてはともに2年生の右腕菰田、左腕檜垣の二枚看板だ。菰田は身長194センチから投じる150キロ超の速球が自慢で、全4試合に先発して防御率1.62。リリーフの檜垣は最多18回を投げ、緩急自在の投球を見せた。



県立岐阜商業高等学校

岐阜県岐阜市則武新屋敷1816-6

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	上畠 将				
	監督	藤井 潤作				
1	投 手	柴田 蒼亮	2	173	75	右右
2	捕 手	小鎗 稔也	3	170	78	右右
3	一 墓 手	坂口 路歩	3	185	85	右左
4	二 墓 手	駒瀬 陽尊	3	170	73	右左
5	三 墓 手	内山 元太	2	172	74	右両
6	遊 撃 手	稻熊 桜史	2	170	65	右右
7	左 翼 手	宮川 鉄平	3	176	76	右左
8	中 堅 手	渡邊 瑞海	2	168	68	左左
9	右 翼 手	横山 温大	3	170	70	右左
10	控	豊吉 勝斗	2	181	82	左左
11	控	和田 聖也	2	175	77	左右
12	控	中下 純太	3	178	80	右右
13	控	丹羽 駿太	1	181	82	右右
14	控	渡辺 大雅	2	173	74	左左
15	控	本多 真大	2	173	73	右右
16	控	神山 堪輔	3	173	74	右左
(17)	控	河崎 広貴	3	169	78	右右
18	控	今津 翔太	3	179	78	右左

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1904年
- 野球部創部年 1925年
- 岐阜大会

1回戦	13 - 4	大垣養老
2回戦	5 - 0	加納
3回戦	10 - 1	池田
準々決勝	10 - 3	多治見工業
準決勝	5 - 0	関商工
決勝	10 - 0	帝京大可児

- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会
- 1回戦 6 - 3 日大山形
- 2回戦 4 - 3 東海大熊本星翔
- 3回戦 3 - 1 明豊
- 準々決勝 8 - 7 横浜
- 準決勝 2 - 4 日大三

- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。

投手層は厚く、打線は勝負強い。選抜王者の横浜(神奈川)を夏の全国選手権大会で破り、16年ぶりに4強入りを果たした。

夏の甲子園で5試合に登板したエースの柴田は球威があり、マウンド度胸も満点。軟投派で制球力のある左腕渡辺大、和田らが要所で抑えたことも、接戦を制するリズムを生んだ。

打線はチーム16安打を放った横浜戦でサヨナラ打を放った4番坂口や甲子園で打率3割8分9厘をマークした5番の宮川が軸になる。

下位打線の横山、渡邊瑞にも勝負強さがあり、どの打順からでも得点できる。横山は生まれつき左手の人さし指から小指がないハンデを乗り越え、甲子園でも攻守に活躍した。球をとらえたあとは右手一本で鋭くバットを振り切る。横山が打つと球場の雰囲気が変わる。



高川学園高等学校

山口県防府市台道3635

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	西岡 大輔				
	監督	松本 祐一郎				
1	投手	松本 連太郎	3	170	68	左左
②	捕手	遠矢 文太	3	180	93	右右
3	一塁手	大崎 浩志郎	3	173	65	左左
4	二塁手	衛藤 謙大	2	168	70	右右
5	三塁手	矢渡 蓮	3	165	65	右左
6	遊撃手	若藤 芽空	2	177	68	右左
7	左翼手	間地 展生	3	177	90	右右
8	中堅手	山口 岳士	3	175	80	右右
9	右翼手	高橋 遥希	3	180	78	右左
10	控	塙地 充喜	3	174	66	右左
11	控	齊藤 瑠牙	3	175	65	左左
12	控	中島 遥真	1	170	68	右右
13	控	中野 仁悟朗	3	166	70	右右
14	控	小山 優輝也	3	165	70	右右
15	控	徳原 与文	3	173	77	右右
16	控	前田 悠槻	3	168	68	右右
17	控	山本 晴斗	3	175	83	右右
18	控	藤村 一平	3	172	75	右右

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1878年
- 野球部創部年 1902年
- 山口大会

2回戦	7 - 0	防府商工
3回戦	10 - 1	徳山商工
準々決勝	6 - 1	柳井学園
準決勝	5 - 2	下関国際
決勝	10 - 3	南陽工業
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

2回戦	8 - 5	未来富山
3回戦	4 - 9	日大三
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。

夏の甲子園は、春夏通じて初の2勝にあと一歩だった。3回戦で準優勝の日大三(西東京)との打ち合いに敗れたが、計10安打をマーク。リードされても、連打でビックイニングを作り粘り強く戦った。

4番捕手の遠矢は大会屈指の右打者。初戦の2回戦では、未来富山(富山)の好左腕からソロ本塁打、二塁打2本の3安打を放った。日大三(西東京)を相手にも3安打して打率7割5分と大暴れした。3番衛藤を中心に上位打線の出塁率が高く、打線となって一気にたたみかける力がある。

2年生右腕の木下は最速146キロの直球を持ち味にイニング以上の三振を奪える。エース左腕が救援すれば、打たせて取る投球で守りからリズムを作る。ロングリリーフも可能で、継投のタイミングもみどころになる。



尽誠学園高等学校

香川県善通寺市生野町855-1

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	岡尾 拓海				
	監督	西村 太				
①	投手	廣瀬 賢汰	3	179	78	左左
2	捕手	鎌田 蒼生	3	169	71	右右
3	一塁手	生田 大悟	3	169	63	右左
4	二塁手	奥 一真	3	164	57	右右
5	三塁手	西條 蓮	3	171	67	右左
6	遊撃手	上村 龍白	3	160	63	右右
7	左翼手	廣橋 一馬	3	177	64	右左
8	中堅手	木下 立晴	3	162	51	右左
9	右翼手	金丸 淳哉	3	186	71	右左
10	控	大杉 裕太	3	165	62	右右
11	控	守屋 樹	3	167	60	右左
12	控	池田 聖愛	3	176	66	右右
13	控	天野 公尊	3	178	64	右右
14	控	玉石 航輝	3	172	68	右右
15	控	西村 伊織	3	168	70	右右
16	控	済藤 凰輝	3	174	60	右右
17	控	石川 皇成	2	177	74	右右
18	控	吉井 煌成	2	179	76	右右

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1884年
- 野球部創部年 1947年
- 香川大会

2回戦	13	—	3	丸	亀
3回戦	10	—	0	津	田
準々決勝	1	—	0	高松	商業
準決勝	5	—	1	観音寺	一
決勝	6	—	2	英明	明
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

2回戦	3	—	0	東大阪大柏原
3回戦	2	—	3	京都国際
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。

主将でエースで4番、「三刀流」の廣瀬を中心とした攻守の粘り強さが持ち味。夏の甲子園では初戦の2回戦で大阪を制した東大阪大柏原(大阪)に完封勝ちし、3回戦は昨夏王者の京都国際(京都)を終盤まで苦しめた。

左腕廣瀬は夏の甲子園で2完投し、四死球は0。低めに変化球を集めることに長け、凡打の山を築いた。打っては勝負強さを發揮し、チーム最高の計4打点をマークした。香川大会の得点圏打率は10割だった。

廣瀬の活躍を引き出すのは、3番生田を筆頭とする選球眼に優れた上位の選手たち。粘って出塁する力があり、好機を演出する。7番廣橋、9番奥が甲子園で打率4割2分9厘を記録するなど、打線に切れ目がない。奥は京都国際戦で3盗塁を決める走力もあり、得点の起点となりそうだ。



沖縄尚学高等学校

沖縄県那覇市国場747

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	伊志嶺 大吾				
	監督	比嘉 公也				
1	投 手	饒平名 祐大	3	183	73	左左
2	捕 手	宜野座 恵夢	3	175	74	右右
3	一 墓 手	新垣 瑞稀	3	171	69	右左
4	二 墓 手	比嘉 大登	3	176	67	右右
5	三 墓 手	安谷屋 春空	3	170	77	右右
⑥	遊 撃 手	眞喜志 拓斗	3	163	64	右右
7	左 翼 手	阿波根 裕	3	170	66	右右
8	中 堅 手	宮城 泰成	3	168	64	左左
9	右 翼 手	伊波 槟人	3	173	69	右右
10	控	我那覇 真	3	174	74	右右
11	控	大城 陽	3	177	83	右右
12	控	照屋 佑樹	3	167	57	左左
13	控	嶺井 駿輔	3	165	69	右右
14	控	田淵 鳩士郎	3	166	67	右右
15	控	田中 彪斗	3	175	63	右左
16	控	志良堂 清京	3	170	68	右右
17	控	屋我 尚輝	3	162	54	右左
18	控	山城 大夢	3	172	73	右左

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1956年
- 野球部創部年 1956年
- 沖縄大会

2回戦	7 - 0	糸	満
3回戦	7 - 0	首	里
準々決勝	2 - 0	美来工	科
準決勝	3 - 1	興	南
決勝	9 - 1	エナジックスポーツ	
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

1回戦	1 - 0	金足農	
2回戦	3 - 0	鳴門	
3回戦	5 - 3	仙台育英	
準々決勝	2 - 1	東洋大姫路	
準決勝	5 - 4	山梨学院	
決勝	3 - 1	日大三	
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。
2年生の二枚看板を中心とした守り勝つスタイルで初の全国制覇を果たした。

エース左腕末吉は最速150キロの力のある直球を軸に、甲子園では全6試合に登板し、34回で39奪三振、防御率1.06を記録した。決勝で先発を任せられた右腕新垣有は大会中に急成長。140キロ台の直球とキレイのあるスライダーを巧みに織り交ぜ、22回で24奪三振、防御率0.82。守りは主将の眞喜志、比嘉の二遊間を中心に堅実さが光り、2年生投手たちをもり立てている。

打線はチーム打率2割台だが、大事な場面で集中打を發揮した。なかでも打率4割7分8厘の4番宜野座、打率3割の7番阿波根は決勝でも適時打を放つなど勝負強さがある。



綾羽高等学校

滋賀県草津市西渋川1-18-1

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	辻田 力哉				
	監督	千代 純平				
1	投手	藤田 陸空	3	171	72	左左
2	捕手	山本 迅一郎	3	176	92	右右
3	一塁手	山下 遥陽	3	167	84	右左
4	二塁手	川中 雄人	3	173	66	右右
5	三塁手	川端 一透	3	179	76	右右
6	遊撃手	経免 拓隼	3	171	64	右右
7	左翼手	磯谷 哉斗	3	167	65	左左
⑧	中堅手	北川 陽聖	3	175	71	右左
9	右翼手	藤井 翼優	3	170	71	右左
10	控	元木 瑞己	2	181	69	右右
11	控	米田 良生有	2	166	66	左左
12	控	濱野 廉	3	164	75	右右
13	控	市場 仙人	2	169	58	右右
14	控	池田 聖瑛	3	168	62	右右
15	控	田代 韶希	2	161	53	右右
16	控	小森 晴稀	2	174	57	右右
17	控	徳田 輝人	2	174	68	右右
18	控	安井 悠人	3	182	71	右右

※背番号の○は主将

- 学校創立年 1965年
- 野球部創部年 1999年
- 滋賀大会

2回戦	21 - 3	甲	西
3回戦	8 - 1	水	口
準々決勝	6 - 3	伊	香
準決勝	8 - 6	近	江
決勝	6 - 3	滋賀学園	
- 第107回全国高等学校野球選手権記念大会

1回戦	6 - 4	高知中央	西
2回戦	1 - 5	横浜	口
- チーム紹介 ※登録外の選手も含まれます。

春夏を通じて甲子園初出場を果たし、悲願の1勝を挙げた。

1番を打つ主将の北川が打線を引っ張る。甲子園1回戦の高知中央(高知)戦では延長十回に勝ち越し打を放った。2回戦の横浜(神奈川)戦は俊足を生かし、1回に内野安打と盗塁で先取点につなげた。スイングの鋭い4番山本は打率5割7分1厘と力を発揮。5番藤井もパンチ力があり、走者を置いて中軸にまわしたい。

投手陣は豊富で、甲子園では6投手が登板した。エース左腕の藤田は内角を攻める積極性が光った。横浜打線を苦しめた米田はカーブを軸にした緩急自在の投球が持ち味で、長身右腕の元木は直球で押す本格派だ。米田、元木のほか市場、川北といった2年生も大舞台を経験し、伸びしろがある。



試合上の注意

1. 適用規則は、2025年度公認野球規則、アマチュア野球内規（2025年）、高校野球特別規則（2025年版）並びに大会特別規則による。
2. 試合方法は、以下の通りとする。
 - (1) 7イニング制とする。
 - (2) トーナメント方式とする。3位決定戦は行わない。
 - (3) 点差によるコールドゲーム（5回終了以降10点差）を採用する。ただし、決勝戦について、コールドゲームを適用しない。
 - (4) 降雨等により試合が成立しなかった場合は、その試合を継続試合とする。
 - (5) 試合が7回終了時点で同点となった場合は、8回からタイブレーク制度を採用する。なお、決勝戦でもタイブレーク制度を採用する。
3. 大会に出場する責任教師、監督並びに選手は、令和7年度大会参加者資格規定に適合したもので、参加申込書に記載された責任教師、監督並びに選手に限る。もし、大会参加者資格規定に触れるチーム、責任教師、監督並びに選手を出場させたことが判明したときには、以下のとおり、相手校に勝利を与える。ただし、単純な過失である場合は、その限りではない。
 - ①大会参加資格規定に触れたチームが大会組合せ抽選会後に判明したときは、試合を没収して相手校を不戦勝とする。
 - ②大会参加資格規定に触れたチームが試合中に判明したときは、直ちに試合を没収して相手校に勝利を与える。
 - ③大会参加資格規定に触れたチームが試合後に判明したときは、そのチームの勝利を取り消し、最終試合を行ったチームに勝利を与え、それ以前にさかのぼっての再試合は行わない。
4. 球場到着時、責任教師は速やかに受付をし、オーダー用紙・投球数確認表を競技本部に提出する。＊オーダー用紙、投球数確認表は配布済み
5. 攻守の決定（オーダー用紙の交換）は、第1試合の場合は、試合開始予定時刻の40分前に、第2試合以降は、前の試合の4回終了時に、競技本部の指定する場所で行う。各チームの出席者は、責任教師、主将およびテーピング使用者とする。
＊マウスガード（同色であれば1個）については、責任教師が持参すること。
6. 用具は、規定（高校野球用具の使用制限に適合）のものを必ず使用することとし、試合前に審判委員が点検する。また、テーピング等を使用する必要がある場合には、攻守の決定時に審判委員の許可を得ること。なお、テーピング用テープは、薄橙色のものを使用すること。
7. シートノックは7分間とする。ただし、4試合の場合は5分以内とする。大会運営上、時間を短縮したり、取りやめたりすることがある。シートノックの際、補助員として3名以内（アップシューズ、試合用ユニフォーム、ヘルメット着用）を認める。
＊ノッカーと補助員は、ノック終了後は速やかにグラウンドから退出し、スタンドで観戦すること。

8. グランド内での打撃練習は行わない。
9. 球場内では、アップシューズを使用し、スパイクシューズへの履き替えは、シートノック前にダッグアウトで行う。(グランド内のアップはアップシューズで行う。スパイクシューズでの歩行は、ダッグアウトとトイレのみとする)
10. 試合中、ダッグアウトに入場できるのは、登録された責任教師1名、監督1名、選手18名の合計20名以内とする。チーム事情により記録員1名（制服または試合用ユニフォームを着用）が入ることは差し支えない。
＊記録員は、毎試合変更してもよい。
11. 背番号は規定のもの（白地の布に黒または紺色の数字）をつけること。責任教師は、平服または都道府県指定のウエアを着用すること。監督およびノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒色または白色のスパイクまたはアップシューズを履くこと。
12. ダッグアウトは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
13. 臨時代走は試合に出場している選手に限られるが、投手を除いた選手のうち、直前に打撃を終了した者を審判員の指示により適用できる。
14. 攻守交代は全力疾走で行う。
15. 試合中のタイムの回数は攻守とも3回以内とする。延長戦に入った場合はそれ以前の回数に関係なく、攻守それぞれ1イニングにつき1回伝令を出すことができる。
また、内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数は1イニングにつき1回1人だけとする。なお、投手が交代したときは、この限りではなく回数には数えない。
16. 危険防止のため、打者、走者、ベースコーチは必ずSGマーク付（製品安全協会制定）両耳つきヘルメットを着用する。捕手は防護用ヘルメット（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）およびカップを使用する。また、鉄棒やバットのはめるリング等は球場内に持ち込まない。
17. 次打者は速やかに次打者席内に入り、投手が投手板についたら注視すること。前の打者が攻撃を完了したときは、速やかに打者席に入ること。
また、打者はみだりに打者席を出たり、ベンチに帰ってはならない。
18. 試合終了後、ただちに勝利校の校旗を校歌演奏のうちに掲揚する。この際、担当審判委員及び勝利校選手は本塁前に整列し、敗戦校は自校ベンチ前に整列する。
19. 応援について
 - (1) 応援団は常に高校生らしく、整然とした品位ある応援をすること。
 - (2) 個人名を記入した横断幕やのぼり等を掲げることや、和太鼓・紙テープ・紙ふぶきなどを使用することは禁止する。応援席におけるゴミは責任を持って持ち帰ること。
 - (3) チームの横断幕等は、スタンドの後面に掲げること。
20. その他
 - (1) VTR・写真撮影等を希望する場合は、別紙様式により大会本部に届けること。
 - (2) 雨天等による試合実施の可否の決定は、第一試合開始予定時刻の2時間前までに行う。
 - (3) 特殊事情が生じた場合は、大会本部で協議の上決定する。

競技の見方

○日本の野球

日本における野球の歴史は、明治時代（1868～1912年）の初期までさかのぼることができる。

当時、東京開成高（現東京大学の前身）で歴史と英語を教えていたホーレン・ウイルソンという若いアメリカ人教師が生徒たちにベースボールを教えたのが最初とされている。

その後、東京の第一高等学校（現在の東京大学教養学部）では、早くから学生が野球に取り組み、「一高」の黄金時代を築いた。ベースボールを「野球」と訳したのも一高の学生である。ついで、「早慶時代」に移り、大正14年（1925年）秋、東京六大学野球連盟が結成されて以来、「六大学時代」に発展した。

昭和9年（1934年）に日本のプロ野球チームが初めて組織されたときには、日本のアマチュア野球はすでに半世紀の歴史を歩んでおり、その中にあって高校（当時は中等学校）野球の大会も20年の歳月を経ていた。

一方、アメリカのベースボールは、プロスポーツとして発展した歴史を持っているが、日本では大学や中等学校の間で盛んになった経緯があり、アマチュア野球を中心に発達した日本とアメリカとでは、このように発達の仕方に違いが見られる。

○野球の魅力

野球は、9人ずつで対戦する2チームが、それぞれ攻守に分かれ、9回（又は7回）ずつ攻守を行い、得点の多いチームを勝ちとする。攻撃側は順次打者となり、相手投手の投球をバットで打ち、アウトにならずに安全に1塁・2塁・3塁を回って本塁に帰れば1点を得る。

守備側は、打者あるいは走者をアウトにしようと協力して攻撃側が得点することを防ぐ。攻撃側が3人アウトになれば攻守を交代し、この攻防を繰り返していく。

野球は、自分でやっても、あるいは観戦していても非常に面白い頭脳的なスポーツで、日本人の国民性にマッチしているようである。一般的にいって、華々しい打撃戦、特にホームランの応酬などは魅力的であるが、野球の魅力は決してそれだけではない。地味であっても堅実な守り、あるいはバッテリーの配球の妙、それを崩そうとする打者のかけひき、チャンス、ピンチの際、監督の作戦とそれに応ずる選手の動きなど、見るべき点は実に多いものである。

野球そのものは、運動競技であることから勝負を度外視すべきではなく、あくまでも勝利に向かってまい進しなければならない。そのためには、平素から、技術の鍛錬とその向上に真剣に取り組み、不斷の研究と不屈の精神の養成が必要である。

こうしたことがあってこそ初めて、スポーツの醍醐味が生まれるのである。

○高校野球の生き立ち

現代日本における大衆スポーツの中で、野球ほど普及しているものはない。子供から大人まで、そして、女性ファンを含めての野球人口は膨大である。この野球人口の中にあって高校野球の占める位置は極めて大きい。

全国的な規模で高校野球の大会が行われたのは、大正4年（1915年）朝日新聞社主催の第1回全国中等学校優勝野球大会が最初である。戦後結成された全国中等学校野球連盟（現日本高等学校野球連盟）と朝日新聞社との共催で、毎年8月には全国高等学校野球選手権大会が行われるようになり、今夏、第107回大会を迎えた。

この大会に10年遅れて始められた、毎日新聞社との共催の選抜高等学校野球大会とともに、わが国野球界の温床の役割を果たし続けている。

○高校野球の目的

高校野球の精神は3つのFで表されており、3つのFとは
Fair play、Friendship、Fighting spirit である。

試合を行って勝敗を決すればよいというものではなく、その目的は、高等学校の教育の一環として、あくまで心身共に健全な将来の日本を担う青少年の育成にある。

○高校野球の真髄

情熱と力のすべてを傾けて、無心に白球を追い続け、ひたむきに応援する学友たちと、ひとつの心に溶け合い精魂の限り勝利の獲得に奮闘する。ここに高校野球の真髄と、若人の誇りがある。

観る人をして感動させ、高校野球の魅力をもたらせるのもまったくこのためにほかならない。ご観戦いただく方々にも高校野球の目的と意義をご理解のうえ、マナーにご留意くださるとともに、純真な選手たちが繰り広げる立派なプレーには、惜しみない拍手を送っていただくことをお願いしたい。

わたS H I G A 輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会 高等学校野球（硬式）競技会」の出場チームは、いずれもトップレベルのチームばかりで、品格技量ともに優れており、必ず高校野球の真髄を発揮してくれるものと期待している。

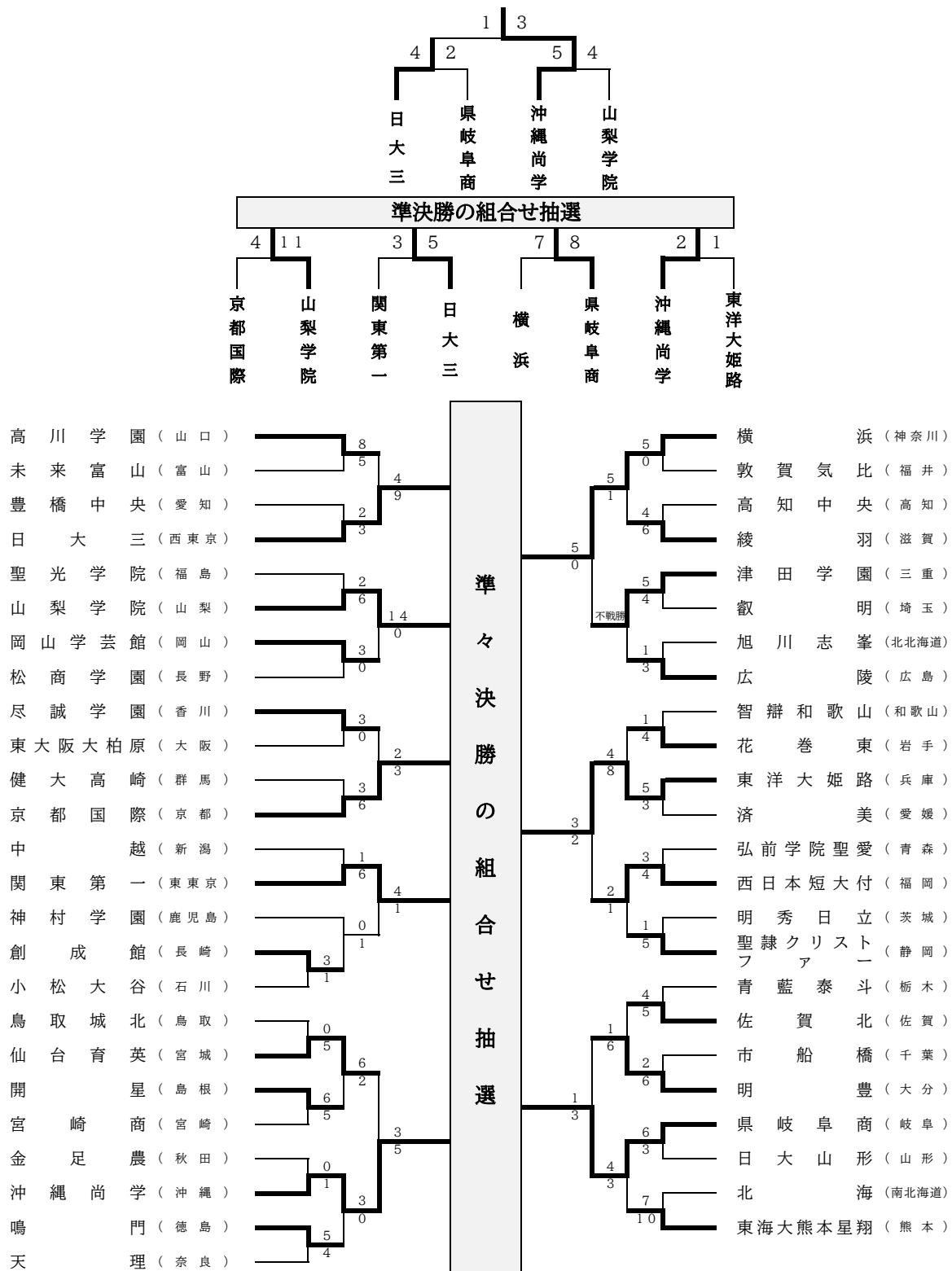
過去の成績一覧

開催年	回	開催地	優勝校（都道府県）	スコア	準優勝校
昭和21年	1	京都 大阪 兵庫 滋賀 奈良	浪華商業学校（大阪）	8 - 3	東京高師付中学校（東京）
昭和22年	2	石川	岐阜商業学校（岐阜）	2 - 1	小倉中学校（福岡）
昭和23年	3	福岡	西京商業高校（京都）	2 - 0	小倉高校（福岡）
昭和24年	4	東京	静岡城内高校（静岡）	2 - 1	明治高校（東京）
昭和25年	5	愛知	瑞陵高校（愛知）	2 - 1	宇都宮工業高校（栃木）
昭和26年	6	広島	広島観音高校（広島）	1 - 0	芦屋高校（兵庫）
昭和27年	7	福島 島根 宮山	盛岡商業高校（岩手）	4 - 0	芦屋高校（兵庫）
昭和28年	8	徳島 愛媛 高知 香川	中京商業高校（愛知）	2 - 1	徳島商業高校（徳島）
昭和29年	9	北海道	高知商業高校（高知）	2 - 0	新宮高校（和歌山）
昭和30年	10	神奈川	四日市高校（三重）	4 - 3	若狭高校（福井）
昭和31年	11	兵庫	中京商業高校（愛知）	1 - 0	米子東高校（鳥取）
昭和32年	12	静岡	坂出商業高校（香川）	1 - 0	広島商業高校（広島）
昭和33年	13	富山	作新学院高校（栃木）	1 - 0	高松商業高校（香川）
昭和34年	14	東京	日大第二高校（東京）	4 - 2	平安高校（京都）
昭和35年	15	熊本	北海高校（北海道）	3 - 0	米子東高校（鳥取）
昭和36年	16	秋田	中京商業高校（愛知）	6 - 1	報徳学園高校（兵庫）
昭和37年	17	岡山	西条高校（愛媛）	2 - 0	久留米商業高校（福岡）
昭和38年	18	山口	下関商業高校（山口）	5 - 4	磐城高校（福島）
昭和39年	19	新潟	博多工業高校（福岡）	2 - 0	尾道商業高校（広島）
昭和40年	20	岐阜	銚子商業高校（千葉）	4 - 1	岐阜短大付高校（岐阜）
昭和41年	21	大分	松山商業高校（愛媛）	1 - 0	津久見高校（大分）
昭和42年	22	埼玉	大宮高校（埼玉）	5 - 1	大分商業高校（大分）
昭和43年	23	福井	若狭高校（福井）	4 - 1	松山商業高校（愛媛）
昭和44年	24	長崎	静岡商業高校（静岡）	1 - 0	玉島商業高校（岡山）
昭和45年	25	岩手	P L 学園高校（大阪）	2 - 1	報徳学園高校（兵庫）
昭和46年	26	和歌山	岡山東商業高校（岡山）	5 - 3	大分商業高校（大分）
昭和47年	27	鹿児島	明星高校（大阪）	7 - 2	高松第一高校（香川）
昭和48年	28	千葉	銚子商業高校（千葉）	3 - 2	作新学院高校（栃木）
昭和49年	29	茨城	土浦日大高校（茨城）	2 - 1	銚子商業高校（千葉）
昭和50年	30	三重	習志野高校（千葉）	4 - 3	新居浜商業高校（愛媛）
昭和51年	31	佐賀	P L 学園高校（大阪）	2 - 1	海星高校（長崎）
昭和52年	32	青森	早稲田実業高校（東京）	5 - 2	東洋大姫路高校（兵庫）
昭和53年	33	長野	報徳学園高校（兵庫）	3 - 2	中京高校（愛知）
昭和54年	34	宮崎	雨天打ち切り、箕島高校（和歌山）・都城高校（宮崎）・浪商高校（大阪）・浜田高校（島根）		
昭和55年	35	栃木	横浜高校（神奈川）	4 - 2	秋田商業高校（秋田）
昭和56年	36	滋賀	今治西高校（愛媛）	2 - 1	早稲田実業学校（東京）
昭和57年	37	島根	広島商業高校（広島）	3 - 1	池田高校（徳島）

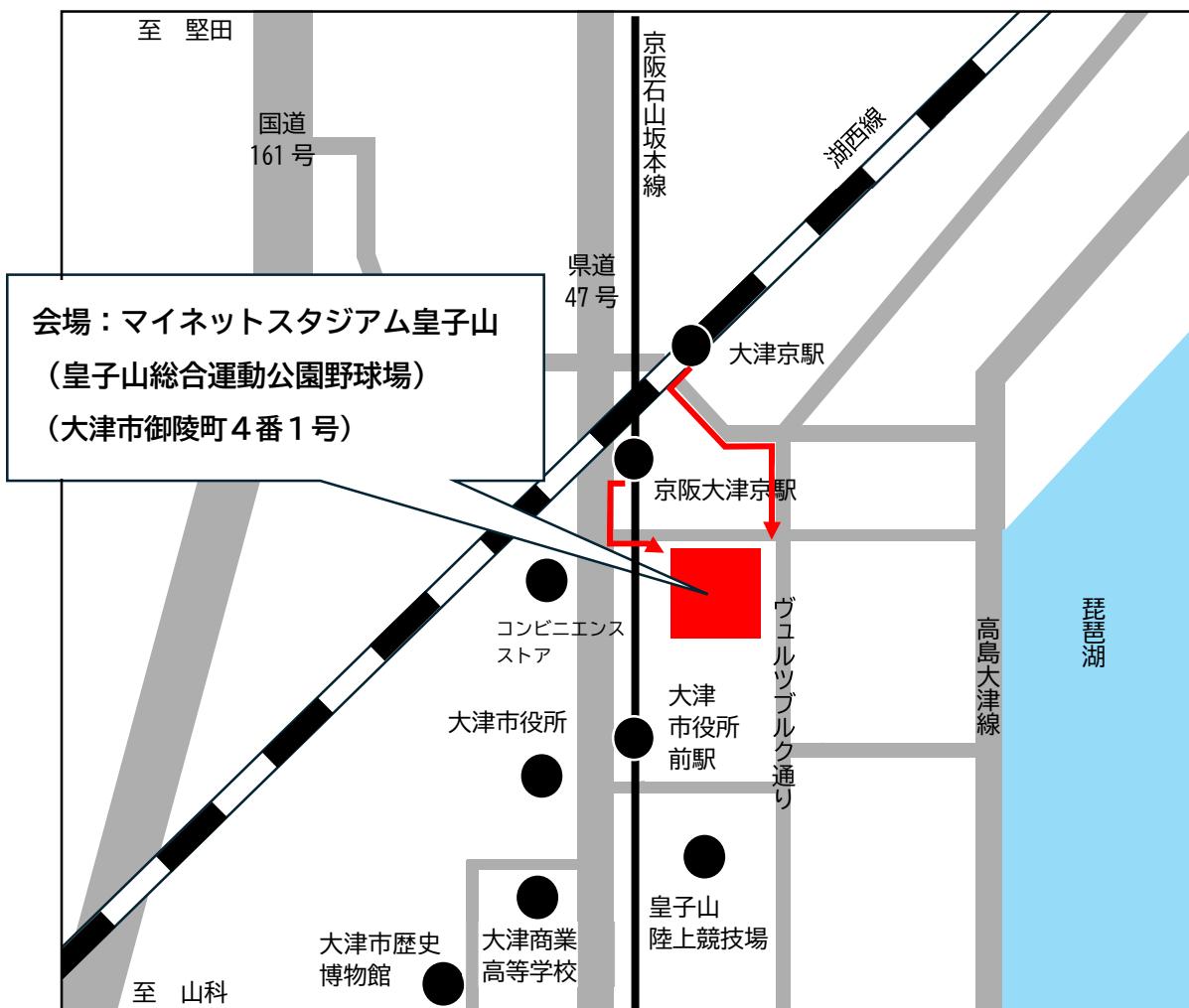
開催年	回	開催地	優勝校（都道府県）	スコア	準優勝校
昭和58年	38	群馬	中京高校（愛知）	4-3	横浜商業高校（神奈川）
昭和59年	39	奈良	取手第二高校（茨城）	5-4	P L 学園高校（大阪）
昭和60年	40	鳥取	高知商業高校（高知）	5-1	宇部商業高校（山口）
昭和61年	41	山梨	鹿児島商業高校（鹿児島）	3-1	東洋大姫路高校（兵庫）
昭和62年	42	沖縄	帝京高校（東京）	1-0	沖縄水産高校（沖縄）
昭和63年	43	京都	沖縄水産高校（沖縄）	6-0	江の川高校（島根）
平成元年	44	北海道	上宮高校（大阪）	5-2	福岡大大濠高校（福岡）
平成2年	45	福岡	鹿児島実業高校（鹿児島）	4-3	松山商業高校（愛媛）
平成3年	46	石川	松商学園高校（長野）	5-1	星稜高校（石川）
平成4年	47	山形	星稜高校（石川）	3-0	尽誠学園高校（香川）
平成5年	48	徳島 香川	修徳高校（東京）	10-0	小林西高校（宮崎）
平成6年	49	愛知	北海高校（北海道）	7-2	愛知高校（愛知）
平成7年	50	福島	P L 学園高校（大阪）	7-6	柳川高校（福岡）
平成8年	51	広島	P L 学園高校（大阪）	7-2	福井商業高校（福井）
平成9年	52	大阪	徳島商業高校（徳島）	5-4	前橋工業高校（群馬）
平成10年	53	神奈川	横浜高校（神奈川）	2-1	京都成章高校（京都）
平成11年	54	熊本	智弁和歌山高校（和歌山）	7-1	滝川第二高校（兵庫）
平成12年	55	富山	横浜高校（神奈川）	6-4	長崎日大高校（長崎）
平成13年	56	宮城	横浜高校（神奈川）	6-5	智弁学園高校（奈良）
平成14年	57	高知	川之江高校（愛媛）	5-4	帝京高校（東京）
平成15年	58	静岡	光星学院高校（青森）	9-7	小松島高校（徳島）
平成16年	59	埼玉	横浜高校（神奈川）	10-3	東北高校（宮城）
平成17年	60	岡山	駒大苦小牧高校（北海道）	9-1	遊學館高校（石川）
平成18年	61	兵庫	早稻田実業高校（東京）	1-0	駒大苦小牧高校（北海道）
平成19年	62	秋田	今治西高校（愛媛）	2-1	広陵高校（広島）
平成20年	63	大分	雨天打ち切り、横浜高校（神奈川）・智弁和歌山高校（和歌山）・倉敷商業高校（岡山）・浦添商業高校（沖縄）・報徳学園高校（兵庫）・鹿児島実業高校（鹿児島）		
平成21年	64	新潟	県岐阜商業高校（岐阜）	11-4	都城商業高校（宮崎）
平成22年	65	千葉	雨天打ち切り、東海大相模高校（神奈川）・新潟明訓高校（新潟）・聖光学院高校（福島）・関東第一高校（東京）・興南高校（沖縄）・明徳義塾高校（高知）		
平成23年	66	山口	日大第三高校（東京）	4-3	習志野高校（千葉）
平成24年	67	岐阜	雨天打ち切り、大阪桐蔭高校（大阪）・仙台育英高校（宮城）		
平成25年	68	東京	大会規定により、修徳高校（東京）・大阪桐蔭高校（大阪）		
平成26年	69	長崎	明徳義塾高校（高知）	3-2	高崎健康福祉大高崎高等学校（群馬）
平成27年	70	和歌山	東海大相模高校（神奈川）	7-5	中京大中京高校（愛知）
平成28年	71	岩手	履正社高校（大阪）	14-6	広島新庄高校（広島）
平成29年	72	愛媛	広陵高校（広島）	7-4	大阪桐蔭高校（大阪）
平成30年	73	福井	大会規定により、浦和学院高校（埼玉）・大阪桐蔭高校（大阪）・近江高校（滋賀）・金足農業高校（秋田）		
令和元年	74	茨城	関東第一高校（東京）	10-2	海星高校（長崎）
令和2年	75	鹿児島		中止	
令和3年	76	三重		中止	
令和4年	77	栃木	大阪桐蔭高校（大阪）	5-1	聖光学院高校（福島）
令和5年	特別	鹿児島	大会規定により、仙台育英高校（宮城）・土浦日大高校（茨城）		
令和6年	78	佐賀	明徳義塾高校（高知）	3-1	小松大谷高校（石川）

第107回全国高等学校野球選手権大会成績

沖縄尚学（沖縄）



競技会場案内図

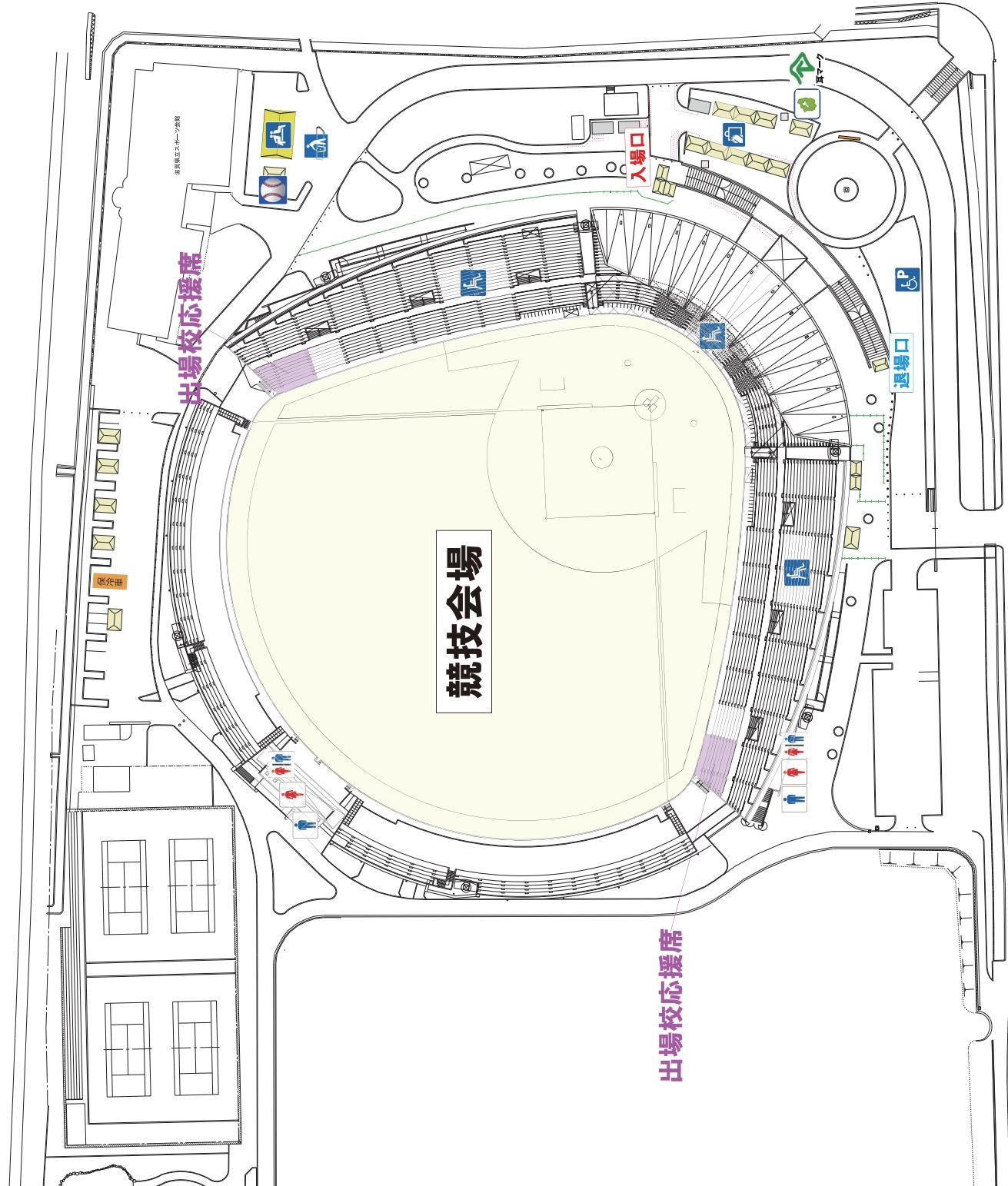


◆会場へのアクセス

電車

JR 湖西線 <大津京駅> から・・・徒歩約 10 分

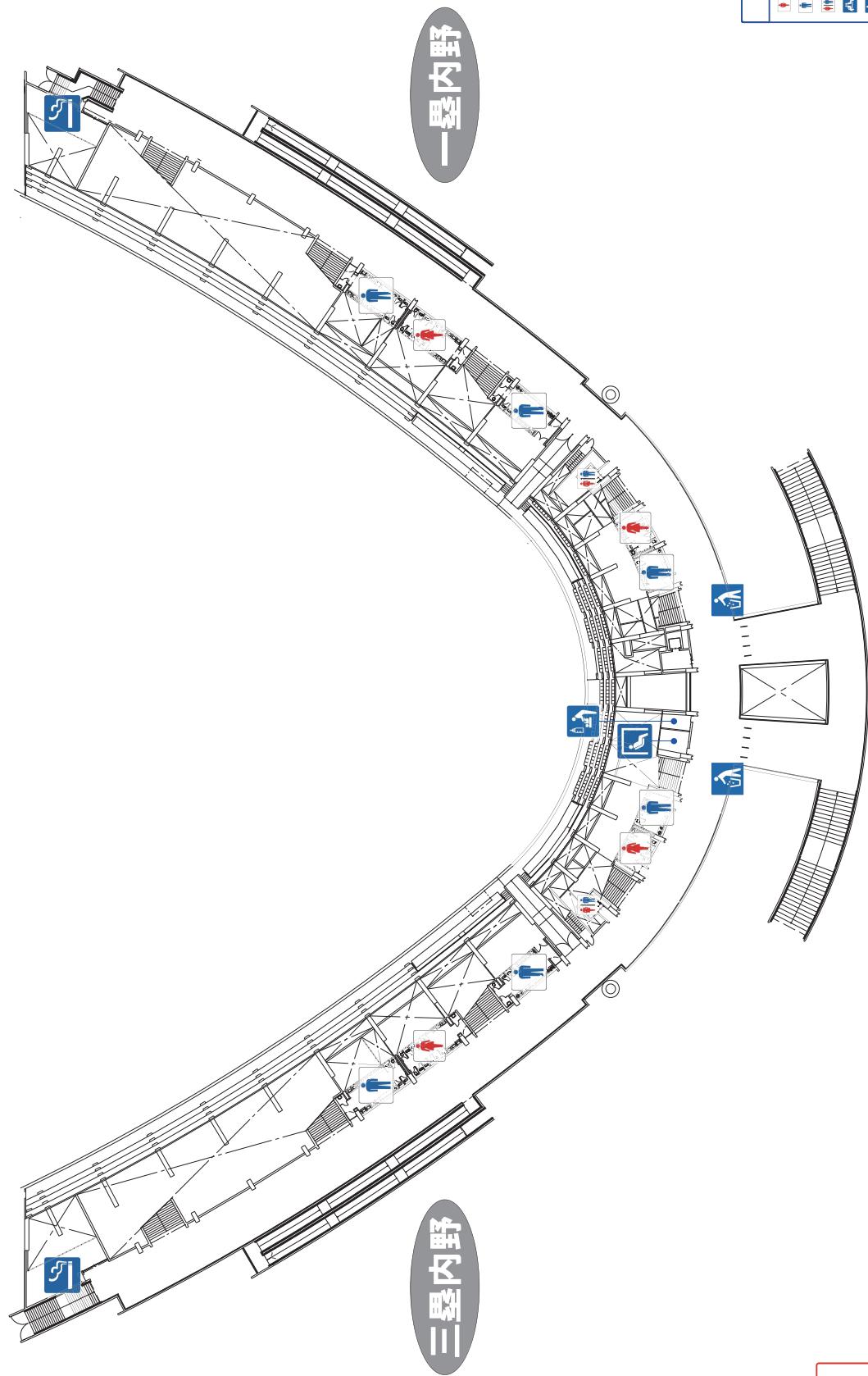
京阪電車石山坂本線 <京阪大津京駅> から・・・徒歩すぐ



【警備に関する取り決め】
会場警備部は全会場警備を行います。
ただし、運営など実動警備担当のため、
保護を必要とする場合は、指定された会場警備部をご利用ください。

【筆談対応について】
当会場は「きんじょくフォーム」にて筆談対応しております。
【カーメタウンベースについて】
当会場では、カーメタウンベースを
用意しております。必要に応じてご利用ください。

凡例	
女性トイレ	P 車いす駐車場
男性トイレ	車いす席
多機能トイレ	売店
休憩所	警備所
観客席	現在地
授乳室・おむつ交換所	ゴミ箱
きんまつベース	筆談可能
筆談	リアルガーデン体験ベース

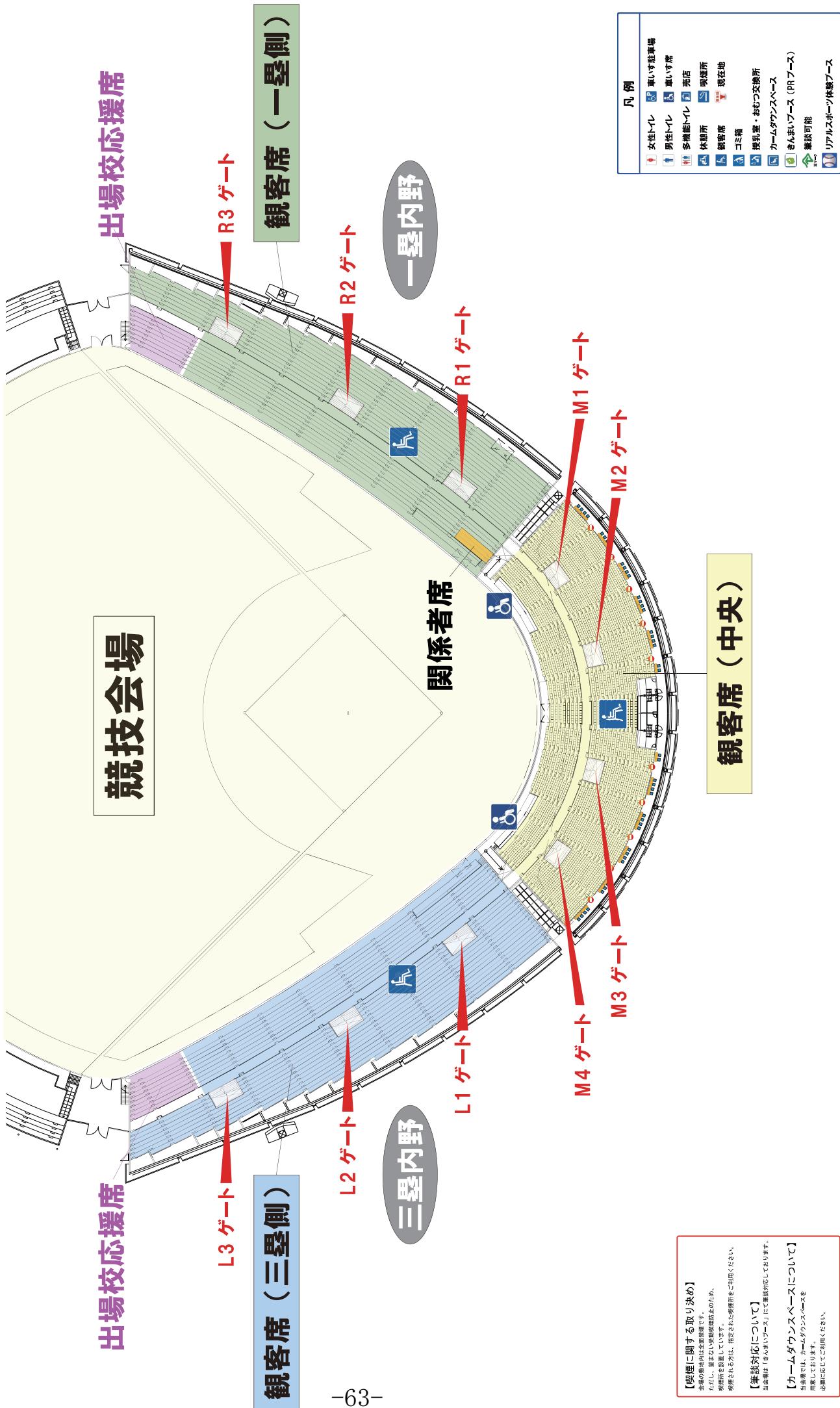


凡例	
女性トイレ	駐い車場
男性トイレ	駐いす席
多機能トイレ	売店
休憩所	喫煙所
授乳室	現在地
ゴミ箱	カームダウヌースベース
きぬまいベース	業務可能
PR ブース	リアルスポーツ体験ベース

【等設対応について】
当会場は、各々のペース(スローペース)にて業務対応しております。
【カームダウヌースベースについて】
会場の内側に金庫を設置します。
ただし、豪雨等による電源遮断が止まらぬ場合、
発生がござります。
発生される場合は、当された営業所をご利用ください。

【カームダウヌースベースを用意しております】
当会場は、カームダウヌースベースを用意しております。
お問い合わせください。

2階（観客席）



関係機関連絡先一覧

◆わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
大会総務課	大津市石場10番53号	077-528-2919

◆会場

名称	所在地	電話番号
マイネットスタジアム皇子山 (皇子山総合運動公園野球場)	滋賀県大津市御陵町4番1号	—

◆警察・消防署等

名称	所在地	電話番号
大津警察署	大津市打出浜12番7号	077-522-1234
大津市消防局	大津市御陵町3番1号	077-522-0119
大津市消防局 中消防署	大津市皇子が丘三丁目2番1号	077-525-0119
大津市保健所	大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津1階	077-522-6756

◆医療

分類	名称	アクセス方法	二次元コード
近隣医療機関	医療情報ネット (ナビイ)	右記二次元コードまたは、 「医療情報ネット（ナビイ）」で検索	

◆タクシー事業者（※）

名称	所在地	電話番号
大津第一交通株式会社	大津市柳が崎5番8号	0120-524-447 077-524-4000
滋賀ヤサカ自動車株式会社	大津市湖城が丘6番11号	077-522-6767
琵琶湖タクシー株式会社	大津市におの浜四丁目6番28号	077-522-6677
有限会社共立タクシー	大津市比叡辻二丁目4番31号	077-579-2278
有限会社湖西交通	大津市坂本七丁目33番6号	077-577-1760

※一般社団法人滋賀県タクシー協会会員事業者で、本社所在地が大津市内にある事業者

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会（滋賀県）へのお問合せ

コールセンター：0120-550-882

開設期間：9月1日（月）～10月31日（金）まで（9:00～18:00）



挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。



スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



Otsuka

大塚製薬



三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ

時事通信



スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”的な行為のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こります。



Japanese
Olympic
Committee



『スポハラ』根絶に向けた取組み



JSPO
Japan Sport Association

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど) に、

みんなが『NO !』と言う社会を目指して



スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



どなたでもご利用可能!

お気軽にご相談ください

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書»



『スポハラ』根絶に向けた取組み



グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

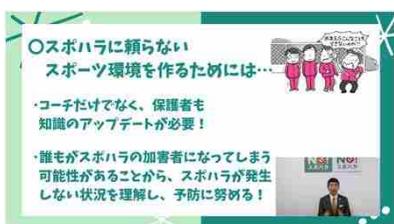


スポーツ現場におけるハラスメント防止動画・情報発信動画の公開

<スポーツ現場におけるハラスメント防止動画>



<「スポハラ」に関する情報発信動画>



ハラスメント防止・啓発セミナーの実施

<令和6（2024）年度の様子（計4会場で実施）>



「NO！スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 ~~悪質なSNS投稿は~~ 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。
すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構



Thank you!



協賛企業・団体のご紹介

JEICO 日本熱源システム株式会社

大津市水道瓦斯工事店協同組合

げんさん[®]
GENSAN BEEF

BAMBA SPORTS

びわ湖ブルーエナジー

JAL 滋賀

日伸工業

日立システムズ

FUJITSU

Cloudnine
人が人を救う社会を創造する

瀬田商工会

Pure Natural Mineral Water
いわまの甜水

吉野家
人を喜ばせる
おもてなし

TAKENOUCHI GROUP

Biwako Kisen

月の輪自動車教習所

KOUEI HOME
株式会社 高栄ホーム

Otsuka

MM SQUARE
新規募集中

MyMall[®]

ZTV 株式会社 ZTV

松田クリーンパック

株式会社大谷設備工業

株式会社竹仁興産

有限会社関西総合商社

私たち、わたSHIGA輝く国スポ大津市開催競技を応援しています。

OTSU CITY

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会 2025



国スポ会場で

1日たっぷり楽しもう！

国スポは、競技観戦だけじゃない！

大津市の国スポ会場には、“来場して楽しめる”コンテンツをたくさん用意しています。

子どもも一緒に楽しむ！



「OTSU DREAM IT CONTENTS」

大津市で開催するすべての競技会場で、子どもたちの思い出に残る企画を実施！！

「競技紹介」

はじめてでもわかる！！競技の見どころ解説

https://otsu-kokuspo2025.jp/kids_page

きんまいブース（PRブース）

ガイドブックやクーポンを配布！

さらにアンケートに答えると、豪華な
賞品が当たるかも！？

滋賀県内最多 12競技を巡るデジタル
スタンプラリーも！



OTSU DREAM IT CONTENTS

①ストラックアウトにチャレンジ
※枚数に応じてプレゼントあり

②高校野球クイズ
高校野球にまつわるクイズにチャレンジ！

③長浜北高等学校によるブラスバンド応援※録音
聞きなじみのある曲で出場校を応援！

④始球式※事前抽選制 募集終了
記念すべき1球をスタンドからの応援で後押ししよう！

手づくり のぼり旗

全国から参加する選手のために、
市内の子どもたちが心を込めて製作。
メッセージやイラストは必見！

ほかにも、見どころがたくさん！

- ・売店やキッチンカー
 - ・花いっぱい運動などなど…
- ※会場ごとで、設置の有無が異なります

まちの歓迎装飾

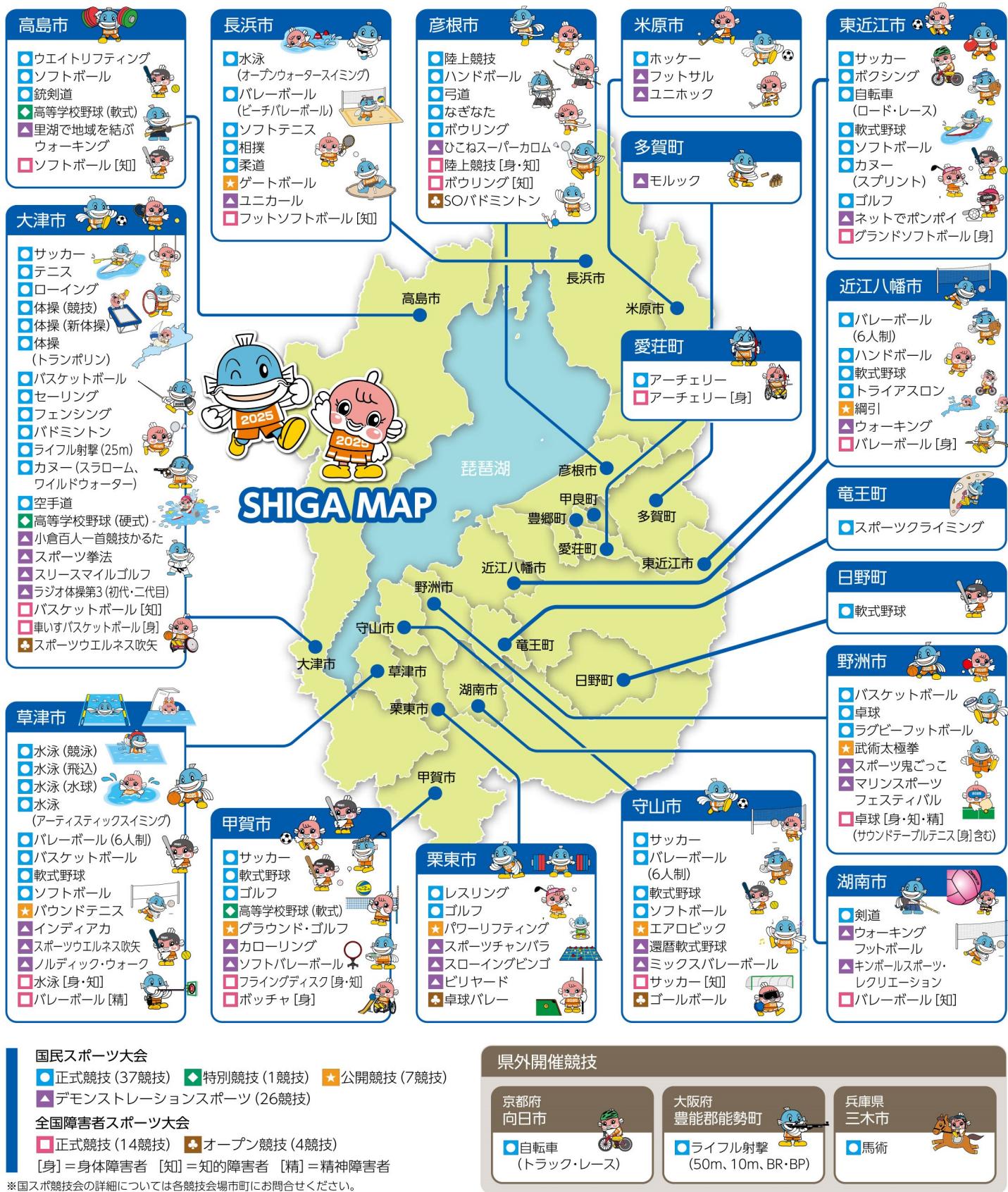
市内を走る京阪電車や駅などを彩り、
大津を訪れる人たちを歓迎！
いくつ見つけられる？

大津市観光キャラクター
おおつ光ルくん



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 競技会場地マップ

2025年8月現在



びわこ国体・びわこ大会から44年ぶりの開催!

国スポ実施期間 令和7年 9月28日(日)～10月8日(水) [11日間開催]
 国スポ会期前実施競技 令和7年9月6日(土)～9月15日(月)、令和7年9月21日(日)～9月25日(木)
 障スポ実施期間 令和7年10月25日(土)～10月27日(月) [3日間開催]

大会公式SNS・HPはコチラから! 滋賀2025 検索

2024年から国民体育大会(国体)は、国民スポーツ大会(国スポ)に名称変更されました。

大会PR
動画を公開!

さらなる高みを目指して、日々努力するアスリートの姿を臨場感あふれる競技音と合わせてご覧ください。



Instagram



X



大会HP



●用紙:責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
●インキ:植物油インキを使用

湖国の感動 未来へつなぐ

第79回国民スポーツ大会

わたSHIGA輝く国スポ2025

来年は、青森県で第80回国民スポーツ大会が開催されます。
また、青森県弘前市でお会いしましょう。



弘前市マスコットキャラクター
「たか丸くん」



大津市観光キャラクター
「おおつ光ルくん」

競技記録結果

開設期間

2025年9月1日（月）～12月26日（金）

▼PC・スマホ

<https://kirokukensaku.net/5NS25/index.html>



▼フィーチャーフォン（ガラケー）

<http://kirokukensaku.net/5NS25/mob/index.html>

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会SNSはこちらをチェック！

大津市実行委員会HP：<http://otsu-kokuspo2025.jp/>

X



Instagram



Facebook



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

滋賀県大津市石場10番53号 TEL：077-528-2919（大会総務課）